

Title	ウイグル文『阿毘達磨順正理論』-大英図書館蔵 Or.8212-75Bから-
Author(s)	庄垣内, 正弘
Citation	神戸市外国語大学外国学研究. 18 p.159-p.207
Issue Date	1988-03
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/20599
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ウイグル文『阿毘達磨順正理論』

——大英図書館所蔵 Or. 8212-75B から——

庄垣内 正 弘

ま え が き

大英図書館所蔵のウイグル語写本 Or. 8212-75A/B は1907年に Aurel Stein によって敦煌の千仏洞より将来された文献である。この文献に関して、1921年には Stein がその体裁について記述し、⁽¹⁾1925年には羽田亨が奥書を中心としながらもその全体について解説した。⁽²⁾彼らはこの文献の内容を『阿毘達磨俱舍論実義疏』に同定したが、のち1790年になって Śīnasi Tekin は 75A に所属し、一から一七の丁数のある独立した1冊子が『実義疏』ではなく Jātaka-stories⁽³⁾ であると推定した。さらに1976年に筆者は、Tekin の Jātaka というのは誤りで、実はこの1冊の内容が Avadāna であることを明かにし、その解説とテキストを提出した。⁽⁴⁾75A/B に関するそれ以外の部分、すなわち『実義疏』に関する研究は、羽田亨以後 Tekin が上の記述とともに奥書について触れ、ファクシミリを出版したが、ほかにまとまった研究は提出されていない。この『実義疏』はウイグル文献中では、ハミ本 Maitrisimit とならんで最大量（およそ7000行）を保有する文献で、元代のウイグル語資料としてとりわけ重要な位置を占めており、テキスト・エディションの早急の提出が期待されている。

このウイグル仏典の翻訳の原典となった漢訳文『実義疏』はサンスクリット原典とともに既に散逸しているので、原典との対照によって全体の翻訳を行うことはできない。しかし幸いなことに、この仏典中には『阿毘達磨俱舍論』や

『阿毘達磨順正理論』からのかなりの量の引用文が含まれている。またウイグル語訳文は極端な擬漢文体を使用している⁽⁵⁾ので、引用文を漢文と対照させることによって、正確な対訳語彙と対訳構文を抽出できる。それらを対照漢文をもたない部分に適用し、ほかのウイグル語文献からの情報を利用すれば全体の翻訳だけでなく、原典漢文の再構もある程度可能となるにちがいない。

ここでは、75Bに引用されている『阿毘達磨順正理論』を捜し出し、その転写テキストと対照漢文、和訳、註記、さらに漢語－ウイグル語対照語彙を提出し、漢文原典再構への足がかりを作りたい。但し、対訳語彙や対訳構文に関する詳細な解説は紙面の都合で別稿に譲りたい。

写本テキスト頁行	転写テキスト文番号	写本テキスト頁行	転写テキスト文番号
25B.7 ~28A.2	1~ 65	59A.10~59B.14	161~175
46B.4 ~47A.6	66~ 78	61A.13~61B.14	176~184
47A.14~47B.8	79~ 85	73B.14~74A.2	185~186
47B.11~48B.6	86~106	74A.14~74B.5	187~190
52B.5 ~52B.15	107~114	75A.2 ~76B.9	191~225
53A.4 ~53A.5	115	76B.11~77B.6	226~242
53B.3 ~53B.7	116~118	79A.15~79B.12	243~249
53B.8 ~55A.12	119~149	79B.15~80B.13	250~267
57B.14~58A.11	150~160	85B.10~86A.2	268~271

(但し、Aは表Bは裏)

- (1) Aurel Stain, *Serindia*, vol. II, Oxford, p. 925.
- (2) 羽田亨「回鶻訳本安慧の俱舍論実義疏」『羽田博士史学論文集』下1958, pp. 148-182.
- (3) Şinasi Tekin, *Abhidharma-kośa-bhāṣya-ṭīkā tattvārtha-nāma The Uigur Translation of Sthiramati's Commentary on the Vasubandhu's Abhidharmakośaśāstra: Abidarim koşavardi şastr* I, Garland Publishing, Inc. New York, 1970, pp. IX-X.
- (4) 庄垣内正弘「ウイグル語写本・‘観音経相応’—観音経に関する‘avadāna’—」『東洋学報』第58巻1・2号, 1976, pp. 01-037.
- (5) 擬漢文体は「阿含経」ウイグル文にもみられるが、これらに関しては、庄垣内『ウイグル語・ウイグル語文献の研究』I (神戸市外国語大学研究叢書第12冊1982, pp. 105-119) を参照されたい。

テ ク ス ト

漢訳文はウイグル文に対照させて掲げ、和訳と註は各頁の下部に掲げる。和訳は逐語訳とし、番号を付して本来のウイグル語順を示すが、大概は日本語語順と一致する。AB1)CD4)EFG3)HI2)→ABHIEFGCD. ウイグル語転写は基本的に音素転写を施したが、若干のものは文字転写で示した。文字 d と t は子音 d, t を表すのに混用されているが、ここでは文字のまま記した。文字 i は実際には i と e をあらわすが、区別せず共に i で表した。又、y に後続し共鳴子音に先行する第一音節の母音を文字表記しない単語があるが、それらの母音はゼロ表記した：YM' (yemä)→ymä YRLYQ (yarliḡ)→yrliḡ. 一方初頭の y に続く前舌円唇母音あるいは köngül の ö は後舌円唇母音を表示する文字 u で表記されているが、これらには該当する母音音素を与えた。

なお漢訳文は『大正新脩大藏經』（第二十九卷 毘曇部）を用いた。但し、漢字は当用漢字を用いた。更に註記で「国訳」と記したものは『国訳一切經』（毘曇部 第二十七卷）のことである。

- | | |
|---|----------------------|
| 1 bu yörmiš-ingiz andaḡ ärmäz | 360 C (4) 此釈不然 |
| 2 25B amtī munda (8) tägimlig ol söz-lägäli | 今且応説 |
| 3 qayu tildaḡ-ın bir tuḡmaq (9) -liḡ bir
turmaq-liḡ bir ärdmäklig ulatī bir tüş-lüg-tä
ulatī köngül köngül-täki (10) nom-lar-ta | 何縁一生一住一滅及一
果等心心所中 |
| 4 söz-lädi köngül-nüng adı bolur iç-tin
sīngar-qī (11) tip | 説心名内 |

-
- 1 「此の（なんじらの）釈は然らず」 andaḡ ärmäz = 「そのようでない」 = 然らず。
 - 2 「今且らく1) 応し3) 説く2)」 munda = 「ここに」 = 且らく。応に対しては tägimlig ol...-ḡali/gäli のほか一般には -ḡu/gü kargäk が用いられる。ただし、不應にたいしては tägimlig ärmäz...ḡali/gäli が用いられる。
 - 3 「何に縁りて一生一住一滅及び一果等が心心所中で」 köngül-täki nom 「心にある法（心所有法）」 = 心所。
 - 4 「説けるや4) 心の名が1) なると3) 内と2)」 名(v.)には atī/adī bol-...tip があてられる。ほかに ada-...tip もみられる。v. = berb n. = noun

- 5 köngül-täki nom bolur taš-tin sīngar-qī tip 心所為外
- 6 豈不心所 (12) 依 nāčük ol köngül-täki nom 豈不心所依仮我心
yīlayu män köngül-kä tayanmaz mu
- 7 bu (13) tayandači töz ol tayaq-īnga körü 是能依性。対彼所依
- 8 ođuraq yaqın yaγuq ärü (14) ärü adī 極親近故。転応名内
bolγu kărgāk ič-tin taš-tin sīngar-qī tip
- 9 26A yana (15) köz-tä ulatī-lar köz bilig-in-tä 又非眼等与眼識等常為
ulatī-lar-qa uzatī (1) tayaq bolur ärmāz 所依
- 10 aridī bolmaz üčün köngül köngül-täki 未曾有心 不与心所
nom-qa (2) 為所依性 ašīray-ī tayaq töz-lüg 為所依性
bolmadači
- 11 anın yintām (3) köngül-täki nom-nung atī 故唯心所 応名為内
bolur ič-tin sīngar-qī tip
- 12 (4) azu yana munda yana bar qayu adirtī 或復此中有何殊理
yörüg
- 13 (tüz-ün (5) täringinčä ärsär) yīlayu män 与仮我心為所依者 立
köngül-kä tayaq bolsar uqıdıp bolur (6) 之為内
ič-tin sīngar-qī tip

5 「心所を1)為すや3)外と2)」 「為」(v.)は目的語をとらないときには bol- が、とるときには qıl- が一般に用いられる。

6 「豈に心所は仮我心へ依らざるや」「豈」は nāčük ol...mu 「どうして…か」で表現されている。

7 「是の能依性は彼の所依に対して」 körü = 「見て」 = 「対して」、能依は tayandači 所依は tayaq 又は tayaq-lyγ で表される。

8 「極めて親近、転じて(その)名は1)なる應し3)内外と2)」 ärü ärü は168でも「転」にあてられている。また Insadi-Sūtra では ärü ärü は「漸漸」に対してあてられている。(semih Tezcan, *Das uigurische Insadi-Sūtra*. BTT III. no. 659). taš-tin 「外」は不要。漢文の故にあたるウイグル語はない。

9 「又、眼等は眼識等へ常に所依と為るに非ず」

10 「曾て1)有らずゆえ3)心が心所へ所依性と為らざること2)」 ašīray-ī = skt. āśraya 「所依」. aridī bolmaz = 「未曾有」 Cf. no. 30. 本来は「未だ曾て、心ありて心所のために所依性と為らざることあらず」(国訳一切經 p. 132).

11 「故に唯、心所の(その)名は1)為す3)内と2)」 「応」にあたるウイグル語がない。

12 「或は復た此の中にまた1)有るや3)何の殊る理2)」 2 番目の yana は不要、adirtī の -ī は不要? あるいはここで切れて、「何の殊ること」と訳すべきか。cf. 13.

13 「仮我心へ所依と為れば(之れを)立てて1)為す3)内と2)」 түз-үн täringinčä ärsär = ? түз-үн は töz-in で12の yörüg につながり、「理性の深きものとしては」と訳すべきか。

- 14 uqıdılmađuq tayandaçı-sın anın siz-lär-ning 不立能依 故彼所言
qayı söz-lämiş-ingiz-lär (7) -ning yoq 無深理趣
arduqraq yörüg yol-ı
- 15 又 (8) 心少分 yana köngül yarım-ça ärür 又心少分 是我執依
ärsär män adqaγ-qa tayaq (9) alqu köngül 一切心依 皆名為內
-lüg tayaq-lar-nıng barça-lar-nıng adı bolur
ıç (10) -tin sıngar-qı tip
- 16 munung uγur-in-ta tägimlig ärmäz mundaγ 由此不應作如是釈
tip (11) yörgäli
- 17 män adqaγ-qa tayaq bolmış üçün yılayu-sınça 我執依止 故仮説心為
söz-lämiş (12) ol köngül-üg bolur män tip 我
- 18 yana yarım-ça köngül 貪等依故 (13) az-ta 又少分心 貪等依故
ulatı-lar-qa tayaq bolur üçün
- 19 köngül-lär barça (14) kkir-lig bolγu kargäk 應一切心皆成染汚
- 20 azu-ça ymä yarım-ça köngül yoγun (15) inča 或少分心 尋伺依故
saqınç-qa tayaq bolur üçün
- 21 26B alqu barça yoγun saqınç-lıγ (1) yinçgä 一切應成有尋有伺
saqınç-lıγ bolγu kargäk

-
- 14 「立てられざりし (その) 能依により、故に汝らの所言の1) 無い3) 深い理趣は2)」 yoq は
実際には YUZ とかかれている。故 (に) 対しては anın 「それにより」 があてられている。
cf. 160. 「彼」にたいして、siz-lär「なんじら」があてられているのはほかに 24 255 256がある。
- 15 「又、心少分1) ならば3) 我執への依2) 一切心の依などの皆の名は4) 為る6) 内と5)」 「一切」と
「諸」には alqu が、「皆」には barça あてられる。
- 16 「此れに由りて1) 応からず3) 是の如くと釈す2)」 「由 (りて)」には常に uγurın(-ta) があてら
れている。
- 17 「我執へ依止となりたるが故に仮に1) 説けり5) 心を2) 為すと4) 我と3)」 「依止」(「たよること」)
には「依」と同じ訳語 tayaq があてられている。
- 18 「又少分心は貪等へ依となる故に」 「少分」= yarım-ça 「部分 (半分) として」。
- 19 「心など皆な染汚と成る應し」 ウイグル文には「一切」にあたる alqu が抜けている。
- 20 「或は少分心は尋伺へ依となる故に」 inča は yinçgä の誤り。「尋伺」= yuqun yinçgä
saqınç 「粗い、細かい考察」。
- 21 「一切は有尋有伺と成るべし」

- 22 bu anda₇ bolmayu tükädsär ol (2) nädägin 此既不爾 彼云何然
anta₇ bol-un
- 23 atird öngi tilda₇ basudt₇çi-lar-ı₇ (3) bolmaz 差別因縁不可得故
üçün bul₇alı
- 24 又彼何能 yana siz-lär nädägin uyur siz (4) 又彼何能遮心所等我執
-lär tad₇alı köngül-däki nom-ta ulatı-lar- 依性
nıng män atqa₇ töz (5) bolur-in (nädägin tip
tisär)
- 25 bar at'öz körüm adqanıp biş tudyaq (6) 以有身見縁五取蘊為境
yükmäkig adqan₇u u₇uş qılur üçün 界故
- 26 anı üçün ol yörmiş-ingiz (7) -lär-ning 是故彼釈理定不然
yörüg-i od₇uraq anda₇ ärmäz tip
- 27 經 birök anda₇ ärsär (8) qayu tilda₇-in 若爾何縁説心為我
söz-lati köngül bolur män tip
- 28 衆 tur₇aru öz (9) adqan₇u-sın-ta ärkä tapça 恒於自境自在行故
yorıyur
- 29 我謂於自境 män (10) ärsär qaltı öz adqan₇u- 我謂於自境常自在行
sın-ta uzatı ärkä tapça yorıdaçı (11) ätür
- 30 köngül-nüng arıdı bulduq-maz ödi 心曾無有時不行自境
yorıma₇uluq öz adqan₇u (12) -sın-ta

22 「此れ爾らざりければ彼は云何然らん」

23 「差別の因縁などを1)不可なる故に3)得ること2)」 basudtçi=basudçi cf. no. 102.

24 「又なんじら何ぞ1)能くするや4)遮すること3)心所等の我執性となるを2)」 nädägin tip tisär
「如何にといわば」にあたる漢文はない。「能」には常に u-...-alı/gäli があてられている。

25 「有身見は1)縁じて3)五取蘊を2)境界と為す故に4)」

26 「是の故に彼の(なんじらの)釈の理は定んで然らず」 「而」は常に inčip 「但」は täk で表されている。

27 「若し爾らば何に縁りて1)説けるや5)心が2)為ると4)我と3)」

28 「恒に自境において自在に行ず」漢文の「故」にあたるウイグル語がない。

29 「我とは謂わく自境に於て常に自在行なり」 「謂」には常に qaltı があてられている。また「謂若」には qaltı birök, qaltı kim-lär があてられている。

30 「心の曾つて1)みづからざりし時4)行ぜざること3)自境に2)」 bulduqmaz = bul 「見つける」-duq(passive)-maz(negative), ここでは「無有」にあてられている。一方223では同じ形式が「無」に対して用いられている。平行例を知らないが、bul- は bol- 「なる、ある」である可能性もある。

- 31 anin alqu köngül-nüng barça-nüng atı bolur 故一切心 皆名為我
mān tip
- 32 (13) nāng alqu köngül-täki nom-lar ymä ök 非諸心所亦得我名
bulmamış ol mān tigüci (14) adıγ
- 33 köngül-üg baş başlaγ qılmaq-ı üz-ä anı 意為上首故 經說独行
sudur-ta (15) yrliqamış ol yalnguz-ın 故
yorıdaçı üçün
- 34 27A ol 'YYSL' SYB köngül-kä (1) tayaq-lıγ- 彼要依心能行境故
ın uyur üçün yorıγalı adqanγu-lar-ta tip
- 35 qaltı (2) alqu köngül-täki nom-lar-ıγ nācā 如諸心所 雖亦調伏
ymä ök turuldursar yavaldur-sar (3) ymä ök
- 36 inçip tāk yig-in tuda söz-lämiş t(ä)g turulmış 而但就勝說調伏心
(4) yavalmış köngül-lüg
- 37 söz-lämiş ol mān tip ymä andaγ oq 說我亦然
- 38 yalnguz köngül ök (5) köngül-däki nom-lar- 唯心非所
qa ärmäz
- 39 若法与此 qayu nom bu oxşatı köngül (6) 若法与此似我之心 為
-kä qamaγ-lıγ-sız asıγ qılsar 不共益
- 40 anıng atı bolur içtin sīngar-qı (7) tip 彼名為內

31 「故に一切心の皆の名は1)為す3)我と2)」

32 「諸の心所も亦1)得ざりき3)我という名を2)」 「非」の位置に nāng「決して」が立っている。

33 「意を上首と為すことの故にそれを經に1)説けるが3)独行と2)故に4)」 üçün は yrliqamış ol のあとにくるのがふつう。

34 「彼は要す心に依りて1)能くするが故に4)行すること3)境などに2)と5)」

35 「諸の心所を亦調伏すといえども」 「如」は qaltı...täg(36)があてられている。

36 「而も但だ勝に就いて1)説くが如し3)調伏心を2)」

37 「説けるも2)我と1)亦然り3)」

38 「唯、心は心所へ非ず」 「唯」には yalnguz があてられているが、ほかでは全て yintām が立つ。

39 「若し法の此の似(我)心へ不共益を為せば」

40 「彼の名は1)為す3)内と2)」

- 41 munung tägšüt-inčä adın nom-lar-nıng atı 与此相違余法名外
bolur iç-tin (8) taş-tın sıngarqı tip
- 42 anın alqu köngül-däki nom-lar-nıng bolmaz 故諸心所無成内失
(9) içdin sıngar-qı bolmaq-lıy mün-i qadaq-ı
- 43 yana alqu köngül-däki nom (10) -lar näčä 又諸心所 雖復与心一
yana köngül birlä bir tuymaq-lıy turmaq-lıy 生住等
ulatı ärsär (11) ymä
- 44 inčip köngül-nüing köngül-kä köni-sinčä atı 而心望心 独名為内
bolur içdin sıngar-qı (12) tip
- 45 非心所者 köngül-täki nom-lar ärmäz 非心所者
- 46 bir uγuš-luγ öngi uγuš-luγ (13) köngül-lär 同異類心
- 47 ödlüm ödlüm bir ikindi-kä körü-šü 展転相望
- 48 tayaq bolmaq-lıy töz-ni (14) barčä tidmäz-lär 為所依性 皆不捨故
üçün
- 49 alqu köngül-däki nom-lar-ta öngi uγuš-lıy-ı 諸心所法 異類望心
(15) köngül-kä körü
- 50 27B adırt-lıy odγuraq tidip öngi üdrülür üçün 必定捨離能依性故
(1) tayandačı töz-in

-
- 41 「此れの相違としての余法の名は1)なす3)内外と2)」 iç-tin 「内」は不要。
42 「故に諸の心所の1)無し3)内と成る失は2)」
43 「又諸の心所は復た心と一生住の等なれども」 「雖」は常に näčä...-sar/sär ymä で表される。
44 「而も心の心への望(?)として(その)名は1)為す3)内と2)」 漢文の「独」にあたるウイグル語は
ない。 könisinčä は「誠実」を意味し、「望」にあてるのはむづかしい。あるいは kör「見る」-is
(dev. noun) -inčä (equative 3rd)?
45 「非心所」
46 「同異類心など」
47 「展転相い望み」
48 「所依と為るところの性を皆捨せざるが故に」
49 「諸の心所法において異類が心に望み」
50 「必定して1)捨離するが故に3)能依性を2)」

- 51 qaltī birök ädgü köngül ädgü-li kkir-lig-li 謂若善心 望善染汚及
ulatī (2) yaraşı-sız köngül-kä körü 無記心
- 52 tayaq töz bolsar barça tidip öngi (3) 361A(1) 為所依性
üdrülmäz 皆不捨離
- 53 kkir-lig yrliḡ-sız köngül ymä andaḡ oq ärür 染汚無記心亦如是
- 54 (4) 心所 birök ädgü köngül-täki nom-lar 若善心所望彼染汚及無
kkir-lig ulatī yrliḡ-sız köngül-kä körü 記心
- 55 tidsär tayandaçı töz-in kkir-lig yrliḡ-sız-ı 捨能依性 染汚無記望
(5) adınğa körü ymä andaḡ oq bolur 余亦爾
- 56 anın köngül-üg köngül-ka körü (6) tayaq 故心望心為所依性
töz bolduq-ta bolmaz üčün bir ikindi-kä 無相間隔
adırlıšmaz tıdıl (7) -ışmaz-ı
- 57 bolmıš ol adı bolḡalı ičdin singar-qı tip 得名為內
- 58 心所 (8) 望心 köngül-däki nom-uḡ köngül-kä 心所望心
körü
- 59 tayandaçı töz bolsar bolur üčün bir (9) 為能依性 有相間隔
ikinti-kä atırlıšmaz tıdılıšmaz-ı bulmamıš 不得內名
ol ičtin singar-qı tigüči (10) adıḡ
- 60 又 yana alqu köngül-täki nom-lar-nıng 又諸心所 望同類心
oxsadı köngül-kä körü

- 51 「謂わく若し善心が善と汚染と及び無記心(?)に望み」 yaraşı-sız köngül は yrliḡ-sız köngül の誤写か、
- 52 「所依性と為れば皆は捨離せず」
- 53 「染汚、無記心は是れ亦是の如し」「亦」には常に ymäが、「又」と「復」には yana があてられている。
- 54 「若し善の心所が染汚、及び無記心に望み」
- 55 「捨てなば2)能依性を1)染汚(その)無記は余に望んで亦た爾なり3)」
- 56 「故に心を心に望み所依性と為りしとき1)無きため3)相間隔2)」
- 57 「得たり4)(その)名は1)為り3)内と2)」
- 58 「心所を心に望み」
- 59 「能依性と為るならば1)有るために3)相間隔2)得ざりき5)内という名を4)」
- 60 「又諸の心所が同類心へ望み」

- 61 tayan (11) -daçi töz bolmaq-ı azu ymä üküš 為能依性 或多或少
az-u ymä az bolur
- 62 köngül-nüng tayaq (12) bolmaq-ı ödrü 心為所依 則不如是由
andaγ munung uγur-ın-ta içdin sīgar-qı 此内名在心非所
tigüci (13) ad turur köngül-tä nom-ta
ärmäz tip
- 63 門若 大地法 birök (14) andaγ ärsär uluγ 若爾大法応受内名
orun-luγ nom-lar tägingü kărgäk içdin (15)
sīgar-qı tigüci adıγ tip
- 64 28A andaγ ärmäz köngül-däki nom-lar-nīng 不爾心所朋類壞故
(1) arq-a uγuš-ı ardatγuluq bolur üçün
- 65 qaltı pardakčan-lar-ta (2) tüšmädaçi törü- 如異生中不隨法者
lüg-i tæg
- 66 46B yana kirsiz nom odγuraq körmäk-tä (5) 362C(18) 又不染法
tarγarγuluq ärmäz 定非見斷
- 67 anı üçün adqandaçi niz-vanı-lar birdäm-lig 緣彼煩惱 究竟斷時
tayanmıš öd (6) -tä timin ök adı bolur 方名斷故
üçün tayanmıš tip
- 68 yana altınč ärmäz (7) -tin tuγmıš-ı ymä ök 又非六生 亦非見斷
andaγ körmäk-tä tarγarγuluq ärmäz

61 「能依性と為ること或は多或は少なり」

62 「心の所依と為るは則ち是くの如く此れに由りて内という名は1)在る3)心に2)所に非ずと4)」
andaγ のあとに ärmäz が欠落している？

63 「若し爾らば大地法は1)受くべし3)内という名を2)と4)」

64 「爾らず心所の朋類は壞することとなる故」 ardatγuluq の t ははっきりしない。arq-a 「背後」,
arq-a uγuš で「朋類」。

65 「異生の中の不隨法者の如し」 pardakčan=skt. pṛthag-jana

66 「又不染法は定んで見斷に非らず」

67 「彼のために縁ずる煩惱は究竟してたよりし時、方に(その)名は1)なるが故に3)依と2)」 漢語の「斷」に対してウイグル語は「依」が入っている。「方」(に)は timin (ök)が常に用いられる。

68 「又、非六生も亦かくのごとく見斷に非ず」 altınč ärmäz-tin tuγmıš 「第六でないものから生じたもの」=「非六生」

- 69 altinė ärsär (8) qaltı köngül orun ärür 六謂意処
- 70 munda öngi inçip tuγmıš-qa adamıš ol altinė 異此而生 名非六生
(9) ärmäz-tin tuγmıš tip
- 71 mundaγ köz-tä ulatı biš ärklig-lär-tin tuγmıš 是從眼等五根生義
(10) tip yörüg ol
- 72 即五識等 ol oq biš bilig-tä ulatı-lar (11) 即五識等 縁色等境
adqanıp öng adqanγuq taşγaru uγur-ın 外門転故 非見所断
ävrilür ücün körmäk-ta (12) tarγarγuluq ärmäz
- 73 yana alqu öng nom-lar andaγ yana kir-lig 又諸色法 若染不染
kir (13) -siz nom-lar ymä ök körmäk-tä 亦非見断
tarγarγuluq ärmäz
- 74 qaltı kirsiz nom-lar (14) täg anı adqandaçı 如不染法 縁彼煩惱
niz-vanı-lar-qa birdämläti tarγarmıš öd-tä 究竟断時 方名断故
timin (15) ök adı bolur ücün tayanmaq tip
- 75 47A 断義云何 tarıqmaq-nıng (1) yörügi ymä 断義云何 略有二種
qayu ol tip tisär qavırasınça bolur iki törlüg
- 76 (2) ang'ilki bay-tın öngi üdrülmäk üz-ä 一離縛断二離境断
tarγarmaq 二 ikinti adqanγu-tın (3) öngi
üdrülmäk üz-ä tarγarmaq

69 「六とは謂わく意処なり」

70 「此れと異にして、而して生じたものへ1)名けたり3)非六生と2)」

71 「是のごとく眼等の五根より生じたという義なり」

72 「即ち五識等1)縁じて3)色境を2)外門で転ずるが故に見所断に非らず4)」 körmäktä tarγarγuluq 「見において断つところのもの」=「所見断」。このような「所」にはふつう γuluq/gülük が用いられる。

73 「又諸の色法はかくのごとくまた染、不染法も亦見において断ずること非らず」

74 「不染汚の法の如く彼を縁する煩惱へ究竟して断ぜし時に方に(その)名が1)なる故に3)依と2)」
漢文「断」にたいして「依」がはいっている。

75 「断の義は何と云わば略して1)有り3)二種2)」

76 「一は離縛断、二は離境断」 bay-tın öngi üdrülmäk üz-ä tarγarmaq 「縛から離れることにおいて断つこと」=「離縛断」。

- 77 baṭ-tin öngi üdrülmäk üz-ä (4) tarṭarmaq 離縛斷者 如契經言
ärsär qaltı sudur-ta yrliqamış ol
- 78 yoqadur-tuq-ta (5) iç-tin sīngar-qı köz uṭuṣ- 於無内眼結如突了知我
uṭ çin-in-čä kirtü-sinčä bilür uqar (6) mn 無内眼結
yoqad-turdum içt-in sīngar-qı köz qoşuṭuṭ
tip
- 79 47A 離境界者 adqanṭu-tin öngi üdrü (1) māk 離境斷者 如契經言
üz-ä tarṭarmaq (15) ärsär qaltı sudur-ta
yrliqamış ol
- 80 47B siz-lär toyın-lar-a kim-lär (1) usar köz-tä 汝等苾芻 若能於眼
tarṭarṭalı amranmaq az-ıṭ 斷欲貪者
- 81 munı üz-ä ödrü adı (2) bolur köz-üg 是則名為眼得永斷
birdämläti tarṭarṭalı umış tip
- 82 abıdarmıkı-lıṭ alqu (3) uluṭ şastırakarı 阿毘達磨諸大論師
baxşı-lar söz-lär
- 83 ol kızıg tızıg-kä tayaq (4) -lıṭ-ın uqıdmış ol 依彼次第 立二種斷
iki törlüg tarṭarmaq-lıṭ
- 84 一自性斷 (5) ang'ılki öz töz-in tarṭarmaq 一自性斷 二所緣斷
ikinti adqanṭ-ın tarṭarmaq

- 77 「離縛斷とはまさに契經に言いけり」 yrliqamış ol は釈尊の言、すなわち「宣う」を表している。
- 78 「無くすることに於て2)内眼結を1)如実に3)了知す8)我は4)無くせし6)内眼結を5)と7)」
- 79 「離境断とはまさに契經に言いしものなり」 adqanṭu-tin öngi üdrülmäk 「境から離断すること」 = 「離境断」。
- 80 「汝ら苾芻よ1)若し2)能くするなら6)眼に於て3)断つこと5)欲貪を4)」 「若」 に対して kim-lär 「だれか」 があてられている。
- 81 「是れにおいて則ち名は1)為す3)眼得永断と2)」 köz-üg birdämläti tarṭarṭalı umış 「眼を永く断ち得るもの」 = 「眼得永断」。
- 82 「阿毘達磨の諸大論師らいわく」 şastırakarı < skt. śāstrakāra. abıdarmıkı-lıṭ < skt. abhidharma -kī (chin. 經) -lıṭ (所屬)。
- 83 「彼の次第へ依りて1)立てた3)二種の断を2)」
- 84 「一は自性断二は所縁断」

- 85 qayu nom (6) munda qoşuγ-uγ ulatı bir 363A(1) 若法是結及
töz-lüg-tä uzaqı bolsar yöründäki (7) tuγmıš 一果等 对治生時
öd-tä anıñ pirapdıñ tarγarsar adamıš 於彼得斷 名自性斷
ol öz (8) töz-in tarγarmıš tip
- 86 47B (11) anı tardmıš üčün adqanγu-luγ 由彼斷故於所緣事 便
vastu-ta ödrü bolur baγ (12) -tın öngi üdrülgäli 得離繫
- 87 odγuraq andaγ-ı pirapdı-qa (13) tükäl-lig 不必於中得不成就 名
bolmaq-in-tın adamıš ärmäz adqay-ın 所緣斷
tarγarmıš tip
- 88 (14) munda alqu ap ymä aqıγ-lıγ öng-lär-tä 此中一切 若有漏色
89 ap ymä kir (15) -siz aqıγ-lıγ öngsüz-tä 若不染汚 有漏無色
- 90 48A ulatı ol alqu tägmäk tuγmaq-ta (1) ulatı 及彼諸得生等法上
nom-lar
- 91 bar körmäk-tä tarγarγuluq ulatı bışrunmaq-ta 有見所斷及修所斷 諸
(2) tarγarγuluq alqu qoşuγ üz-ä qoşulγuluq 結所繫
bolmaq-ı
- 92 munı munçulayu alqu (3) qoşuγ-lar-qa ančan 如是諸結 漸次斷時
ančan k(ä)zig-čä tarγarmıš öd-tä

- 85 「若し法が是に結を、及び一果(?)において、遠いものとなるならば(?)」(その) 对治が生ぜし時に彼の得を断つならば1)名けたり3)自性断と2)」 pirapdı=skt. prāpti「得」. töz-lüg は tüş-lügの誤りであろう。国訳:「若し法、是れ結にして、及び一果等の对治の生ずる時、彼れに於て断を得るを、自性断と名く。」。すくなくとも「於彼得断」に対するウイグル語訳は誤り。
- 86 「彼を断じたるが故に所縁事に於て便ち1)得3)繫を離るるを2)」 vastu=skt. vastu「事」.
- 87 「必ずかくのごときものは得へ成就することから1)名けしにあらず3)所縁断と2)」 ウイグル文は漢文と少し異なる。国訳:「必ずしも中に於て、不成就を得ざるを、所縁断と名く。」
- 88 「此の中に一切の若しくは有漏色に」 ap ymä は89の ap ymäと共に「若しくは…… 若しくは」を表す。
- 89 「若しくは不染汚、有漏の無色に」
- 90 「及び彼の諸の得生等の法に、」
- 91 「有り2)見所断及び修所断の諸結における所繫となること1)」 körmäk-tä tarγarγuluq「見において断つところのこと」=「見所断」. bışrunmaq-ta tarγarγuluq「修において断つところのこと」=「修所断」.
- 92 「是くの如き諸結へ漸次に断ぜし時に」

- 93 bir bir (4) bölük-täki öngin öngin angayu 於一一品各別体上
töz-lär-tä u
- 94 tursar bay-tin (5) öngi üdrülmäk-lig pirapdı 起離繫得時彼諸結及一
ol öd-tä ol alqu qoşu-lar ulatı (6) bir 果等 皆名已斷
tüs-lüg-tä ulatı-lar-nıng barça-nıng adı bolur
tarıqu (7) tükädmiş tip
- 95 彼有漏色 ol aqı-lıy öng-lär-tä (8) ulatı kirsiz 彼有漏色 及不染汚
- 96 aqı-lıy öngsüz-tä birlä yana alqu tägmäk 有漏無色 并彼諸得生
tu-maq (9) -ta uladı nom-lar ta 等法上
- 97 alqu barça-tin öngi üdrülmäk-lig (10) pirapdı 諸離繫得
- 98 ol öd-tä tur-urmiş-qa adı bolmaz tarıqmış tip 爾時未起 未名為斷
- 99 (11) ol alqu nom-lar yintäm ol orun-tağı 由彼諸法唯隨彼地最後
qama-ta ang kinki oq (12) -suz yol iyin 無間道諸斷故
tarıqu ücün
- 100 näng alqu körmäk yol üz-ä (13) uyur ärmäz 非諸見道 能隨地別次
ücün adirt-i iyin iyin kızıg-çä kir-tin öngi 第離染
(14) üdürülgäli
- 101 nädägin uzun tar-aralı ol öng-tä nom-lar-ıy 云何能斷彼色等法

93 「一一の品にある各別の体に於ける」

94 「起こすならば2)離繫得を1)その時に彼の諸結及び一果等などの皆の名は3)なる5)已断と4)」
bay- tin öngi üdrülmäk-lig pirapdı 「繫から離れることの得」=「離繫得」. 漢語の「已」
には常に -u/ü(gerund) tükät- があてられている。

95 「彼の有漏の色に及び不染汚の」

96 「有漏の無色に并に諸の得生等の法らに」 「并」には birlä yana 「ともにまた」があてられて
いる。

97 「諸の離繫得を」 barça は bay のあやまり。cf. 94.

98 「爾の時に起きしことへ(その)名は1)為さず3)断と2)」 tur-urmiş は tur-urmamış 「起
こらなかった(こと)」の誤りであろう。

99 「彼の諸法は唯だ彼の地にありし最後の無間道に随いて断ずるが故に」

100 「諸の見道において1)能くせざるがため3)(その)別に随いて次第として染を離るること2)」
国訳「能く地の別の次第に随って、離染するに非ず。」

101 「云何ぞ1)能くせんや4)断すること3)彼の色(等の)法などを2)」 öng-tä のあとに ulatılar-
nıng 「等の」がぬけている。

- 102 48B tüz (15) -ün-lär kirtü-sin körmiş-lär 見聖諦者 諸惡趣法
 ärsär alqu ayıy azun-taqı (1) nom-lar-nıng 衆緣闕故 已得不生
 qamaγ basudçı-si ägsük üçün bulu tüküdür
 tuγmaq (2) -süz-in
- 103 anı adqanγuçi niz-vanılar-ıy tarγarmaduq 縁彼煩惱未断尽故
 alqmaduq üçün
- 104 (3) anılayu oq adı bolmaz tarıqmış tip 猶未名断
- 105 問若法未断 qayu nom (4) tarıqmadın bulu 若法未断已得不生 或
 tükädsär tuγmaq-süz-ıy azu-ça ymä tükäl 不成就
 (5) -lig bolmasar
- 106 munta tarıqu tükädmäk birlä bar qayu (6) 此与已断有何差別
 adırtı tip
- 107 52B alqu nom-lar-ta (6) yintäm iki törlüg 363C(15) 一切法中
 nom-lar oq ärür körüm-nüng öz töz-i 唯有二法 是見自体
- 108 önglüg (7) nom-lar-ta yintäm köz-nüng 有色法中 唯眼是見
 ärür körüm
- 109 öng-süz nom-lar-ta uγur-i (8) yaruq yaşuq 無色法中 行相明利
 yti sikiz adqanγu uγuş-uγ yinčürdäci 推度境界
 izdätäci

- 102 「見聖諦は諸の 惡趣 にありし 法の衆緣の 闕けている故に1) 得已う 3) 不生を2)」 tüz-ün-lär kirtü-sin körmiş-lär 「聖(者)などの諦を見たもの」=「見聖諦」. ayıy azun「悪い世界」=「惡趣」. qamaγ basudçı「全てのよりどころ」=「衆縁」.
- 103 「彼に縁るものは煩惱を未だ断尽せざるが故に」 adqanγuçi は a'dqanγuçi, tarγarmaduq は ta'γarmaduq とかかれている. 国訳「彼の煩惱, 未だ断尽せざるに縁るが故に」.
- 104 「猶お(その) 名は1)ならず3)断と2)」 「猶(お)」には常に anılayu oq があてられている.
- 105 「若し法が未だ断せず1), 得已り3)不生を2), 或はまた成就せざれば4)」
- 106 「此こで已断と1)有りや3)何の差別2)と4)」 tarıqu tükädmäk 「断じ已えること」=「已断」.
- 107 「一切の法における唯二種の法は1)なり3)見の自体2)」
- 108 「有色法において唯眼のもののみ1)なり3)見2)」 köz-nüng は köz ök のあやまりか.
- 109 「無色法において行相(?)は明利, 境界を推度するもの」 uγur は「行相」にあてられているが, ふつうは「原因」「理由」「機会」を表す.

- 110 (9) içgärü uγur-in ävrilür ücün bilgä bilig 内門転慧 是見非余
ärür ol körüm adın (10) -lar-i ärmaz
- 111 munda köz-nüng töz-i qaltı öngdün söz-läyü 此中眼相 如前已説
tükädmiş (11) tag tidir yirtinçü-taki-lär-kä 世間共了
yomγ-i-qa bililmiş
- 112 ücün körmäk (12) yaruq yaşuq öngüg 觀照色故 闇相違故
qarangγu tagşüd-inçä ücün iş-i küdük-i (13) 用明利故
yaruq yaşuq yti sikiz ücün
- 113 söz-lämiş ol köz-nüng adı bolur (14) körüm tip 説眼名見
- 114 biş kir-lig körüm-lär-ig anuşayakoş-ta kin 五染汚見 随眠品中当
uqıdγay (15) biz anıng tözin 弁其相
- 115 53A yirticü-lüg köni körüm ärsär qaltı 362C(20) 世間正見
köngül bilig birlä (5) yaradılmış ädgü 謂意識相応 善有漏勝
aqıγ-lıγ yig atruq bilgä bilig 慧
- 116 53B ang'ilki köni körüm tigüci sav-ta 363C(23) 一正見言
tükäl tudulur ücägü 具攝三種
- 117 angaru (4) adırıp üç qılmaq-i ärsär uqıdγalır 別開三者 為顯異生学
ücün ärür pardakçan (5) boşγut-luγ boşγut- 無学地 三見別故
suz orun üz-ä üç körüm-lär-ning adırıl (6)
-miş-in

- 110 「内門に転ずるがために慧は1)なり3)見2)余に非ず4)」 ävrilür は 'ävrilür とかかされている。
- 111 「此において眼の相は前に説き已えたるが如く1)といわる3)世間へ共に了した2)」
- 112 「故に3)観ずるが2)照色を1)闇の(その)相違としての故に(その)用が明利故4)」 最初の ücün 「故に」は körmäk のあとにくるのがふつう。
- 113 「説けり4)眼の名が1)なると3)見と2)」
- 114 「五の染汚の 見を 随眠品に當に 1) 弁ぜん (われらは) 3) 其の相を 2)」 anuşayakoş=skt. anuşayakoşa, skt. anuşayakoşa-sthāna-「随眠品」(平川彰ほか『俱舍論索引』第一部1973年 p.27)。「当(に)」に対して157では inçip があてられているが、ここでは kin 「後に」があてられている。kin の立つ例は Or. 8212-75A の 94a, 117a, 128b に見られる。
- 115 「世間の正見とは謂わく意識と相応せし善の有漏の勝慧」 atruq は 'truq とかかされている。
- 116 「一の正見という言に具は1)撰す3)三(種)を2)」
- 117 「別開して2)三を1)為すこと3)顕わす故なり5)異生, 学, 無学地において三見の別となりしことを4)」

- 118 yana uqıdʒalır ücün ärür ančan ančan 又顯漸次修習生故
kızıg-ça (7) bışrunmaq ögrädinmäk-ning
tuymış-ın
- 119 53B inča qaltı tün (9) ülüş-in-tä ay-ta ulatı- 363C(24) 譬如夜分
lar-nıng yaruq yoq-in-ta bulıd (10) BU""Q 無月等明雲霧晦冥而遊
bük bolup qararmış-ın-ta inçip kâz-ä 險阻
yorıduq-ta (11) uçrum ada-lı-qa
- 120 körgülük-ça öng-lär-ning körk (12) -lär-ning 所見色像無非顛倒
bolmaz ärsär tädrü ärmâz bolmaq-ı
- 121 bış törlüg kkir-lig (13) körüm-lär üz-ä 五染汚見 觀法亦爾
nomu-ı körmäk ymä anda-ı oq ärür
- 122 54A inča (14) qaltı tün ülüş-in-tä ulatı-lar- 譬如夜分有月等明除諸
nıng yaruq-ı bar-in-ta (15) öngi kidärip 晦冥而遊險阻
alqu bük üz-ä qararmaq-ı inçip kâz-ä (1)
yorıduq-ta uçrum ada-lı-qa
- 123 körgülük öng-lär körk-lär (2) yarım-ça 所見色像少分明淨
yruq arı-ı bolmış tæg
- 124 yirtinçü-lüg köni körüm üz-ä (3) nomu-ı 世間正見 觀法亦爾
körmäk ymä anda-ı oq ärür

118 「又1)顯す故なり3)漸次修習の生を2)」

119 「譬えば夜分に月等の明無きに雲霧晦冥せしときに而して1)遊びしとき3)險阻に2)」
BU"" Q=霧? cf.128.「譬如」は inča qaltı...-ta(tæg)で表される. bük bolup qaranmış
=「晦冥」, bük はふつうは「茂み」を表す.

120 「所見として色の像の1)無ければ3)顛倒ならざること2)」

121 「五しゝの染汚の見において法を觀るも亦爾なり」

122 「譬えば夜分において<月>等の明有ることにおいて1)除き3)諸晦冥を2)而して4)遊ぶとき6)
險阻に5)」 ülüş-in-tä のあとに ay-ta 「月」(locative) がぬけている. bük üz-ä qaran-
maq=「晦冥」, cf. 119.

123 「所見の色像、少分明淨となりしが如し」

124 「世間の正見において法を觀るも亦爾なり」

- 125 inčä qaltı (4) kün-düz ülüş-in-tä bulıd 譬如暎分雲翳上昇掩蔽
tuman yuqaru aγdınıp ördmiş (5) kölidmiş- 日輪而遊平坦
in-tä kün tngri tilgän-in inčip kâz-ä yorıduq-
ta tüz (6) taşang orun-ta
- 126 körgülük-čä öng-lär ančan ančan ükliyü (7) 所見色像漸增明淨
közünmiş-i tæg
- 127 boşut-luγ köni körüm üz-ä nomuγ körmäk 有学正見 觀法亦爾
ymä (8) andaγ oq ärür
- 128 inčä qaltı kün-düz ülüş-in-tä 然日舒光 (9) 譬如暎分烈日舒光雰霧
kün tngri-ning y(i)rdılmış isig čoy-ı üz-ä 廓清而遊平坦
bulıt BU""Q arıγ (10) -layu tigü tæg
ačılduq-in-ta inčip kâzä yorıduq-ta tüz (11)
taşang orun-ta
- 129 körgü-lük-čä öng-lär körk-lär qamaγ (12) 所見色像最極明淨
-ta yruq arıγ bolmıš-ı tæg
- 130 boşud-suz köni körüm üz-ä (13) nomuγ 無学正見 觀法亦爾
körmäk ymä andaγ oq ärür
- 131 如如行者 anča anča (14) yogačarı-lar ančan 如如行者漸習慧生
ančan ögrädinip bilgä bilig-ig tuγur (15)
-maq-ta

125 「譬えば暎分における雲霧が上に昇り 1) 掩蔽せしことにおいて 3) 日輪を 2) 而して 4) 遊びしとき 6) 平坦の地に 5)」 taşang については、庄垣内『ウイグル語・ウイグル語文献の研究 I』(1982年 p.164 註112) を参照。「雲翳」に対して bulıd tuman「雰霧」が入っている。

126 「所見としての色は漸く増して明淨になりしが如し」「明淨」közün- に対して 123 などでは yruq arıγ bol- が立つ。öng-lär のあとに körk-lär (像) がぬけている。

127 「有学の正見において法を觀るも亦爾なり」

128 「譬えば暎分において日の舒せし熱き(烈しき)光において雰霧を清めるがごとくに廓げたときに而して 1) 遊びしとき 3) 平坦地に 2)」 「清めるがごとく」は arıγ-layu tigü tæg「清めていうのごとく」と直訳できる。BU""Q=霧?

129 「所見としての色像は最極において明淨なるが如し」

130 「無学の正見において法を觀るも亦爾なり」

131 「如如の行者は漸く習して慧を生ずることにおいて」 anča anča は 'NC' 'NC' とかかれていて、'NC' は nāčä とよむべきか。国訳「如如の行者の漸習生として、」。

- 132 54B tar̄armiš-ča öz köngül-täki bilig-siz-lig 除自心中愚闇差別 如
qaranḡu (1) -nung adirt-tin anča anča oq 是如是
- 133 alqu adqay-in-ta köni körüm (2) ančan 於諸所緣 正見漸增明
ančan üklyü ar̄y yruq bolmaq üz-ä adirt 淨有異 非所緣境 有
öngi bolur (3) adqan̄u-luq adqan̄u-si ar̄y 淨不淨
kkir-lig bolur ärmäz
- 134 tuyunmaq bilgä (4) bilig-ning kkir-i tid̄y-i 由自覺慧垢障有無 故
bar yoq bolm̄iš tæg ücün an̄in qalt̄i (5) 謂所緣有淨不淨
adqay-i-n̄ing bolur ar̄y-i kkir-lig-i
- 135 mun̄i alqu körüm-lärig yomdarsar (6) ūyüş 如是諸見 總類有五
üz-ä bolur biş
- 136 -yrl̄y-siz ūyüş-lūy 二 ikinti kkir-lig (7) 一無記類 二染汚類
ūyüş-lūy 三 ücünä ädgü aq̄y-l̄y ūyüş-lūy 四 三善有漏類 四有學類
törtünä boş̄ud (8) -lūy ūyüş-lūy bişinē 五無學類
boş̄ud-suz ūyüş-lūy
- 137 無記類中 (9) yrl̄y-siz ūyüş-taq̄i köz ärklig 無記類中 眼根是見
ärür köz
- 138 qul̄aq-ta ulat̄i (10) alqu ärklig-lär alqu 耳等諸根 一切無覆無
ördüg-süz yrl̄y-siz bilgä bilig-tä (11) ulat̄i- 記慧等 悉皆非見
lar alqu barča körüm ärmäz

132 「除きしがごとき自心中の愚闇の差別 是の如し是の如し」 国訳では「自心中の愚闇を除くが如き差別、是の如し、是の如し。」とある。adirt のあとに -tin とよめる一形式がある。

133 「諸の所縁において正見が漸く増して明淨なることにおいて異有るは所縁の境が淨、不淨有るに非ず」 ar̄y yruq bolmaqはyruq ar̄y bolmaq「明淨」の誤り。

134 「覺慧の垢障が有無となりしがごとき故。ゆえに謂わく所縁の1)有り(という)3)淨、不淨2)」

135 「是の(ごとく) 諸見を経ぶるならば類に1)有り3)5)2)」 mun̄i の後に mun̄ulayuy がぬけている。

136 「一は無記類、二は染汚類、三は善有漏類、四は有學類、五は無學類」

137 「無記類中、眼根は1)なり3)見2)」二つめの köz は körüm「見」の誤り。

138 「耳等の諸根など一切の無覆無記の慧等は悉く皆な見に非ず」

- 139 kkir-lig u₇uš-taqi biš körüm-lär (12) ärür 染汚類中 五見是見
körüm
- 140 adin kkir-lig bilgä bilig-lär alqu barča 余染汚慧 悉皆非見
körüm ärmäz
- 141 (13) qaltı az övkä küvänä qama₇-li₇-süz 謂貪瞋慢不共無明疑俱
bilig-siz sizig birlä (14) tu₇mış bilgä 生慧
bilig-lär ärür
- 142 adin kkir-lig nom-lar ymä ök (15) barča 余染汚法 亦皆非見
körüm ärmäz
- 143 55A 有学類中 boş₇ud-lu₇ u₇uš-taqi aqı₇ (1) 有学類中 無慧非見
bilgä bilig ärür körüm
- 144 boş₇udsuz u₇uš-ta öngi kidärip (2) alqınçu 但余非見 無学類中
Y”L’ tu₇maq-süz bilgä bilig-lär-ig adin boş₇u 尽無生智及余非見 余
(3) -dsuz bilgä bilig-lär alqu barča ärür 無学慧一切是見
körüm
- 145 ädgü aqı₇-li₇ (4) u₇uš-ta yintäm köngül 善有漏類中 唯意識相
bilig birlä yaradılmiş ädgü bilgä bilig (5) 応善慧是見
ärür körüm
- 146 atin-lar-i alqu barča körüm ärmäz tip 有 余皆非見有余師説
(6) 余師説 bar adin baxşı-lar söz-lär

139 「染汚の類中の五見は1)なり3)見2)」

140 「余の染汚の慧などは悉く皆な見に非ず」

141 「謂わく貪、瞋、慢、不共の無明疑俱生の慧などなり」 qama₇-li₇-süz 「皆とともでない」 = 「不共」.

142 「余の染汚の法なども亦、皆な見に非ず」

143 「有学類中の漏慧は1)なり3)見2)」 ウイグル訳は漢文と一致しない。国訳：「有学の類中、慧にして見に非ざるなし。」

144 「無学類において1)除き3)尽Y”L’、無生智を2)余の無学の慧は一切4)なり6)見5)」 ウイグル文は漢文と異っている。国訳：「但だ余は見に非ず。無学の類の中、尽と無生智と及び余は見に非ず。余の無学の慧は、一切是れ見なり。」

145 「善の有漏類において唯だ意識と相応せし善慧は1)なり3)見2)」

146 「余は皆な見に非ずと有余師が説く」 「有余師」 = 「他の或る人びと、正統派の論師が異端の論師をよぶ称、また名を示すに値しない学者をよぶ称」(中村元『仏教語大辞典』上 p.88)。この漢語に対してウイグル語は bar 「有」 adin 「余」 baxşı 「師」と逐字訳している。

- 147 köngül bilig birlä yaradıl (7) -mış ädgü 意識相応善有漏慧 亦
 aqıγ-lıγ bilgä bilig ymä ök körüm ärmäz 有非見
 bolur
- 148 qaltı (8) biş bilig-lär quvraγ-ı üz-ä tardılıp 謂五識身所引発慧 発
 tuγmıš bilgä bilig (9) birlä uqıdur-uγ 有表慧 命終時慧
 tuγurdaçı bilgä bilig ölmış ödki bilgä (10)
 bilig ärür 又 yana ölgäysük ödtäki ymä/tir
- 149 yana ädgü aqıγ (11) -lıγ uγuš-taqı biş 又於此善有漏類中 五
 bilig-lär birlä tuγmıš bilgä bilig ymä (12) 識俱生慧亦非見
 ök körüm ärmäz tip
- 150 57B andaγ ärmäz köz bilig-i-ning küci üz-ä 364B(2) 不爾 眼識
 särgürüp (15) tudmaqlıγ yig adruq işi 力所住持 勝用生故
 tuγar ücün
- 151 58A odung-nung küc (1) -ingä tayaq-lıγ-ın 如依薪力勝用火生
 yig aduruq iş-lig oot tuγmıš-ı (2) täg
- 152 birök öng körmäk iş ärür bilig-ning törü- 若見色用是識生法
 lügi tisär
- 153 (3) bu öngüg körmäk iş köz-tä öngi tuγγu 此見色用離眼応生
 kargäk
- 154 由識長 (4) 益 bilig uγur-ın-ta üklip ašılıp 由識長益俱生大種 令
 birlä tuγmıš max-a (5)but-ı kim tuγurmaq 起勝根

147 「意識と相応せし善有漏慧も亦、見に非ざる有り」 aqıγ は a'qıγ とかかれている。

148 「謂わく五識身において引発せし慧と有表を發する慧と命終時の慧なり」 「五識身」の「身」はここでは複数(plural)を表しているが、ウイグルではこれに quvray(「集まり」)があてられている。「又」以後は ölmış ödki の註記, öl-「死」-gäy(future) -sük(dev. noun)?

149 「又善の有漏類中、五識俱生の慧も亦、見に非ず」

150 「爾らず。眼識の力において住持することをもて勝用生ずるが故に」

151 「薪の力に依りて勝用の火生ぜしが如し」 aduruq < adruq

152 「若し色を見る用1)なり3)識の(生)法2)というならば4)」

153 「此の色を見る用は眼を離れて生ず応し」

154 「識に由りて長益し俱生の大種が1)起こさしむることにおいて3)勝根を2)」 max-a but=skt. mahā bhūta 「大種」「令」に対してkim「だれか」……(tur)-ur(causative)-(maq) があてられている。cf. 庄垣内 (1982) p. 208, K六-8.

üz-ü yig adruq ärklig-ig

- 155 uyur körgäli (6) qamaγ öng-lär-ig 能見衆色
- 156 anın tägimlig ärmäz söz-lägäli tayandaçı 故不應説能依識見
bilig (7) körür tip
- 157 kim bolγay bilgä-lär-tä inčip qılđaçı bu 誰有智者 当作是言
sav-ıγ
- 158 (8) kim bar ärsär avant tılđay tuγurγ(a)lı 諸有因縁能生了別
udaçı bilmäk adırt-lamaq (9) -ıγ
- 159 mundaγ uşuγ-luγ bilmäk atırdlamaq ärsär 如是了別 即彼因縁
ol oq avant (10) tılđay ärür tip
- 160 bilig ärür üčün körüm-nüng tılđay-ı anın 識是見因 故非見体
(11) körüm töz-lüg ärmäz tip
- 161 59A (10) yukdī-lar agam-lar yoq üčün 364B(8) 理教無故
- 162 yukdī yoq tip timiş-i ärsär (11) qulγaq-ta 言理無者 与耳等識無
ulatı bilig-lär birlä adırt-sız üčün 差別故
- 163 köz bilig-i (12) -ning qulγaq-ta ulatı alqu 眼識与彼耳等諸識 有
bilig-lär birlä bar qayu adırt-ı 何差別
- 164 (13) inčip säcä adī bolur üčün körüm tip 而独名見 故不應言識
anın tägimlig (14) ärmäz söz-lägäli bilig 為見体
bolur körüm töz-lüg

155 「能くす3)見ることを2)衆色を1)」

156 「故に1)応からず4)説く3)能依の識を見ると2)」

157 「誰か1)有らんや5)智において當に2)作すもの4)是の言を3)」

158 「たれか有るならば4)因縁の1)生じ能うもの3)了別を2)」 「諸有」(「あらゆるもの全て」)に
対して、kim bar ärsär「だれか有るなら」があてられている。

159 「是の如きの了別は即ち(彼の)因縁なりと」

160 「識は1)なるがゆえ3)見の因と2)故に見体に非ずと4)」 漢語「故」に対しては、ふつう üčün
が用いられるが、üčün「故に」……anın「それで」、あるいは anın のみの使用もある。üčün
は漢文語順に従わず常に理由を表す語に直接後続する。

161 「理など教など無きが故に」 yukdī=skt. yukti「理」、agam=āgama「教え」。

162 「理無しと言ひしは耳等の識と無差別の故」

163 「眼識の耳等の諸識と1)有るや3)何の差別の2)」

164 「而して独りその名は1)なるがゆえ3)見と2)故に4)応からず9)言う8)識は5)為ると7)見体と6)」
säcä=säc「選ぶ」-ä(gerund) = 「選んで」。ここでは「独」にあてられている。

- 165 59B 答謂 birök (15) söz-läsär siz-lär 若謂所依根差別故異余
tayanıuluq ärklig-lär adiri(1)mış üçün 識者
adın (1) bilig-tä öngi ärür tip
- 166 yörüg töz-in-täki-ča (2) ärsür tagimlig 理不応然
ärmaz andaı bolalı
- 167 bilig tayaq uıur-in-ta adirilmış (3) üçün 識由所依有差別故 但
täk tapladılar ärdi tagşilip (4) köz bilig 可想転得眼識名
tigüci adı bulmış
- 168 tagimlig ärmaz tayaq-i adirilmış (5) üçün 不応所依有差別故 法
nom töz-i tagşilip ärü ärü körüm töz (6) 性改易 転成見体
-lüg bolalı
- 169 qaltı ot iıaç-qa ud mayaq-ınga qıı-qa (7) 如依草木牛糞糠火 名
tayaq-lıı od at näcä tagşilsär ymä 雖改易
- 170 inçip işig töz (8) -lär-i bir tag bolmış-i tag 而煖性同
- 171 alqu bilig-lär-ning bir ikinti-kä (9) körüşü 諸識相望 性類無別
öz töz üz-äki uıuş-i adirt-sız ärür
- 172 söz-läsär (10) yintäm köz-kä tayaq-lıı bilig 言唯依眼識見非余
körür adın-i ärmaz
- 173 説随 (11) 情 munı köngül iıın söz-lämiş ol 此説随情不依正理
köni yörüg-kä tayaqlıı-in (12) ärmaz

- 165 「若し1)謂わば(なんじら)3), 所依の根を差別したるが故に余識に異なると2)」 adiri(1)mış は
"DYRY'MYŞ とかかれている。
- 166 「理性にあるものとしてならば1)応からず3)然る2)」 bolalıはbolalı とかかれている。
- 167 「識は所依に由りて差別したるが故に、但、うけいれけり、転じて眼識という名を得たり」 ウ
イグル文は理解しがたい。想転は「阿含経」では saqınč-tin ävril- として表されている (庄
垣内1982 p.129 106)。
- 168 「応からず2)所依が差別したるが故に法性改められ転じて見体を成す1)」 tagşilip のあとに
丸でかこんだ ärmaz tayaq-i があるが、この二語は不要。
- 169 「草木に、牛糞に、糠に依る火が名をいかに改易すと雖も」
- 170 「而も煖性は同じきが如し」
- 171 「諸識の相望んで性にある類は無別なり」
- 172 「言うならば2)唯、眼に依る識を見るは余には非ずと1)」 国訳：「唯、眼識に依りて見にして
余に非ずと言ふは、」。
- 173 「此を情に随いて説けり、正理に依るにあらず」

- 174 birök munda öngüg adqanmîş üçün anîn 若此緣色故成見者
körüm (13) bolur tip tisär
- 175 öngüg adqandaçı köngül bilig ymä ök (14) 緣色意識亦成見
körüm bolıu kargäk tip
- 176 61A 61B birök söz-läsär-siz köz bilig-i ärtür 364C(6) 又說 眼識
kördäçi (14) köz ärmäz tip yirtinçü-kä 是見非眼 世間相違
qarşı bolur yirtinçü-täki-lär (15) tak söz- 世間但說無 眼名盲
lämiş-lär ol közsüz-nüng adı bolur täglük 非無眼識
tip (1) 非無眼識 näng köz bilig-i yoq oq
ärmäz
- 177 qaltı (2) täglük bolmaq tak köz-kä tükäl-lig 謂盲但由不成就眼 不
bolmamaq uıur-in-ta (3) ärür köz bilig-ingä 由眼識成与不成
tükäl-lig bolmaq birlä yana tükäl-lig (4)
bolmamış uıur-ında ärmäz
- 178 ikinti dyan-ta yuqaru tuymış-lar (5) -nıng 非生第二靜慮以上 於
anda köz bilig-in yüüz yügärü qılmađu 彼眼識不現前時 有眼
öd-tä köz bolup (6) bilig yoq bolmaq üz-ä 無識可名盲者
bolur ärmäz täglük adaıalı
- 179 yana alqu (7) täglük-lär-nıng näcä ägsük 又諸盲者 雖聞眼根
ärsär ymä köz ärklig-i

174 「若し此こで色を縁じたるが故にそれもとて見を成ずるといわば」

175 「色を縁ずる意識も亦、見を成ず応しと」

176 「もし（なんじら）説くならば5)眼識は1)なり3)見2)眼に非ずと4), 世間に相違す, 世間のものは但だ6)説けり 10)無眼の名は7) となると9) 盲と8) けっして眼識無きには非ず 11)」 közsüz は KUYUSUS とかかれている。

177 「謂わく盲となるは但だ眼を成就せざるに由るなり、眼識への成とまた不成とに由らず」

178 「第二靜慮以上に生じたものが彼こで眼識を現前せざりし時に眼有りて識無きにおいて1)可きには非ず3)盲者と名く2)」

179 「又諸の盲者の1)闕くと雖も3)眼根を2)」

- 180 inçip (8) tükäl ärdüki üz-ä köz bilig-i adī 而成眼識 応不名盲
bolmaγu kargäk täglük tip
- 181 (9) ymä ök yana tägimlig ärmäz adaγalī 亦復不應名無見者
körmäk-siz tip
- 182 若言 (10) 見識 birök söz-läsär siz-lär kördäci 若言見識不現前故
bilig yüüz yügärtü (11) bolmaduq üçün
- 183 näcä yana tükäl-lig bolmasar ymä inçip söz 雖復成就 而説為盲
(12) -lämš ol bolur täglük tip
- 184 munī üz-ä ödrü yirtinçü-täki (13) alqu 是則世間 諸有目者
köz-lüg-lär-ning bilig-i tuγmaduq tuš-ta 識不起位應亦名盲
ymä ök (14) adī bolγu kargäk täglük tip
- 185 73B 74A 有情眼根 tīnlγ (15) -lar-nīng köz 370A(9) 有情眼根
ärklig-i säviglig sävigsiz öng-lär-i üz-ä 愛非愛色之所拘礙
tīdīlγuluq (1) tudulγuluq bolur tip
- 186 bir ikinti-kä tägmäz-kä tīdīlmaq (2) 非不相至 拘礙義成
tudulmaq-līγ yörüg büdär ärmäz tip
- 187 74A 74B 釈曰 (15) 境相至 ärklig-lär-ning 370A(12) 根境相至
adqanγu-lar-nīng bir ikinti-kä (1) tägmäk- 其義不定
ning anīng yörügi odγuraq-siz ärtür
- 188 birök ädräm (2) tuda adqanγu-lar-qa 若就功能到境名至
tägmäk-ning adī bolur tägmäk tip

180 「而も1)成じたることにおいて3)眼識が2) (その) 名は4)なる応からず6)盲と5)」

181 「亦、復た1)応らず4)名ずく3)無見者と2)」

182 「若し1)言うならば (なんじら) 7), 見識が現前せざりしが故に2)」 和訳の番号は 182 から184 までにおよぶ。

183 「復た成就せずと雖も而も3)説けりと6)為すと5)盲と4)」

184 「是れにおいて則ち世間の諸の目有る者らの識が起らざりし位においても亦 (その) 名は8)なる 応し10)盲と9)」

185 「有情の眼根は愛、非愛の色において拘礙せらるる所なりと」

186 「不相至への拘礙の義が成ずること非ず」

187 「根の境の相至の其の義は不定なり」

188 「若し功能に就いて境へ到ることの (その) 名は1)なる3)至と2)」 tuda は tudsar の誤りか？

- 189 ödrü (3) alqu ärklik-lär yintäm alir üçün 則一切根唯取至境
tügmiş-täki adqanγuγ
- 190 birök (4) töz-i-ning bärgü-sining uγuś-in 若就体相無間名至
tudsar adī bolur tagmāk (5) tip
- 191 75A (2) divatad-ta ulatī-lar-ning bolur 370A(17) 非天授等
ärmāz yorīmaq täpinmāk-lig (3) törü-si 有行動法
- 192 ĩraq yaqīn iki bulung yīngaq-lar-ta bir 遠近二方一時俱至
öd-tā (4) birgärü taggü-lük
- 193 anī üçün köz ärklik alir tagmāz-kānki 是故眼根取非至境
adqanγuγ
- 194 (5) birök söz-lāsār qaltī yruq ĩraq yaqīn 若說如燈 於遠近境一
adqanγu-lar-ta bir (6) ödtā birgärü tagmiş 時俱至 是彼性故
täg ärür üçün ol töz-lüg tip
- 195 bu söz (7) -lämiş-ingiz-lär andaγ ärmāz 此說不然 因不成故
tildaγ-ī būdmāz üçün
- 196 謂若有說 (8) qaltī kim-lār birök söz-lāsār 謂若有說 譬如明燈遠
inčā qaltī yula yaruq-ī ĩraq (9) yaqīn iki 近二方俱至而照
bulung yīngaq-lar-qa birgärü tägip inčip
yarudmīs (10) täg

189 「則ち一切根は唯だ1)取るゆえ3)至境を2)」

190 「若し(その)体相の類に就くならば(その)名は1)なる3)至と2)」 ウイグル文は漢文とすこし異なる。

191 「天授等の1)有ること非ず4)行動の法が2)」 divatad=skt. devadatta 「天授」。和訳の番号は192番におよぶ。

192 「遠近二方に一時に俱して至ること3)」

193 「是の故に眼根は1)取る3)非至境を2)」 täg 「至る」 -māz (negative aorist) -kān (past) -ki (adjective)?

194 「若し1)説くならば6)燈が遠近の境において一時に俱して至りしが如し2)なるが故に4)彼の性3)と5)」 燈にあたる yruq は YUQ とかかされている。あるいは yula とかかれるべきか。cf. 209, 196, 198, 202 etc.

195 「此の(なんじらの)説は然らず(その)因が成ぜざるが故に」

196 「謂わく、たれか若し1)説くならば6)譬えば明燈が遠近二方へ俱に至りて而して照らすが如く」和訳の番号は196から198までにおよぶ。

- 197 köz ärklig ymä andaγ oq 眼根亦爾
- 198 ĩraq yaqĭn iki adqanγu-larĭγ (11) birgärtü 遠近二境俱至而取 同
 tägip incĭp alĭr ol yula yaruq-ĭ birlä bir täg 彼明燈火明性故 此因
 ot (12) yruq töz-lüg ücün qarşı boluřmaz 不成
 tip tildaγ-ĭngĭz-lar (13) bŭdmäz
- 199 眼火明性 köz-nüng ot-nung yruq töz-lüg 眼火明性非極成故
 (14) -i bolmaq arduqraq bŭdmĭř ärmäz ücün
- 200 yana köz-kä tägimlig ärmäz (15) munda 又眼不応是火明性
 ot yruq-ĭ töz-lüg bolγalı
- 201 75B qarangγu-ta küsäsär (1) tiläyür ücün 闇中欲見求光明故
 yruq yařuq-uγ
- 202 näng yula uγramĭř öd (2) -tä yarudγalı 非燈欲照瓶衣等時別求
 BU'''YN böz-tä ulatĭ-lar-ĭγ angayu tiläp 光明助方能照
 çoγ-lar (3) yruq-lar-nĭng basut-lamaq-ĭn
 timin ök uyur ärmäz yarudγalı
- 203 (4) 若謂眼中 birök söz-läsär-siz-lär köz-tä 若謂眼中火明小故求大
 yruq (5) yařuq azumĭř ücün tiläp uluγ 光明助方見者
 yruq yaldrĭq-nĭng basut (6) -lamaq-ĭn
 timin ök körür tip

197 「眼根も亦た爾なり」

198 「遠近二境（へ）俱に至り而して取る、彼の明燈は2）と同じ4）火明性3）故、対立しあわずと5）、（なんじらの）因は成ぜず7）」 adqanγu-larĭγ の ĭγ（対格）は -qa（与格）の誤りであろう。 qarşı boluřmaz「対立しあわず」は漢文にはない。

199 「眼の火の明性となるは極成するに非ざるが故に」

200 「又、眼へ1）応からず3）是において火明が性となる2）」

201 「闇に欲するなら1）求むる故に3）光明を2）」 qarangγu は qara'ngγu とかかされている。 küsäsär のあとに körmäk「見」が脱落している。

202 「燈が1）欲したる時4）照らすことを3）瓶衣等を2）別に5）求めて7）光明などの助を6）方に8）能くせず10）照らすことを9）」 BU'''Y'は「瓶」をあらわす。

203 「若し1）（なんじら）謂えば6）眼における火明が小なるが故に2）求めて4）大光明の助を3）方に見ると5）」 yruq yařuq「火明」は oot yruq の誤りか。

- 204 bu ymä ök törü-süz ärür (7) körülür üçün 此亦非理 現見小明大
kiçig yruq-nung ulu₇-i üz-ä yaval₇u-luq (8) 所伏故
bolmıš-i 又 basıdıl₇u-luq bolmıš-i ymä/tir
- 205 köz birdämlig uma₇u (9) kargäk öng körgäli 眼応畢竟不能見色
206 yana yruq yula yöläšürüküngüz-lär köz 又明燈喻 与眼不同
birlä (10) birikmáz
- 207 yaqın sıq-a od₇uraq yarudmıš-i körülmáz üçün 隣逼無間照不見故
208 qaltı (11) yruq yula yana tingsim-tä-ki 謂如明燈 於油炷等
oot-ta ulatı arduqraq yaqın (12) sıq-a 極隣 (遍物能燒能照
adqan₇u-lar-qa 眼則不然 於眼藥等極
隣) 逼境
- 209 umaz üçün körgäli 又如明燈 yana (13) qaltı 不能見故 又如明燈
yruq yula alqu iraq-taqı yaqın-taqı 於諸遠近所照之物 無
yarud₇uluq (14) äd-lär-kä oq-suz tüzü 間遍照眼則不爾
yarudmıš-i tag köz ödrü anda₇ (15) ärmáz
- 210 76A azu-ča ymä ärdip ikin ara₇ı sögüd 或越中間樹林等色見山
arı₇-ta (1) ulatı öng-lär-tä körür üçün 等故
ta₇-ta ulatı-lar-ı₇
- 211 munta (2) u₇ur-ın-ta yula yöläšürüküngüz- 由茲燈喻 與眼不同
lär köz birlä birikmáz

- 204 「此れも亦た理に非ず1), 現見する故に3) 小明の大において 伏すこと2)」 körülür の前に
yügärü がぬけているのか, cf. 249 252.
- 205 「眼は畢竟じて1)能わざる応し3)色を見ること2)」
- 206 「又, (なんじらの) 明燈の喩は眼と同じからず」 yöläš 「依る」 -ür(causative) -ük (noun)
=喩
- 207 「隣逼し極めて照らしたるを見られざるが故に」 od₇uraq 「極めて」は od₇ura'q とかかれて
いる。漢文ではこの位置に「無間」がはいっている。「無間」は209では oq-suz があてられている。
- 208 「謂わく, 明燈はまた……」 yana 以下は分からない。
- 209 「能わざるが故に2)見ること1)又明燈が諸の遠近にある所照の物へ無間に遍く照らしたるが如く
眼は則ち爾らず3)」
- 210 「或はまた1)越えて3)中間の樹林等の色を2)見るが故に5)山等を4)」
- 211 「ここに由りて (なんじらの) 燈の喩は眼と同じからず」
yöläšürüküngüz は YUL'SU- RU'KUKUZ らかかれている。

- 212 前所 (3) 立因 öngdüñki uqıdıy-u-çı tıldayıñgız- 前所立因 遠近二境俱
lar ıraq-taqı (4) yaqın-taqı iki adqanγu-lar-qa 時取故
bir öd-tä alır üçün
- 213 (5) tigüci tanuq ärür köz-nüñg yıntäm alır- 証眼唯取非至境者 理
ınga tägmiş-täki ärmäz (6) adqanγu-lar-ıy 無傾動
tisär yörüg-i-ning bolmaz ämidmäk-i (7)
täpinmäki
- 214 yana köz-kä tägimlig ärmäz adqanγu-qa 又眼不應至境方取 以
tägip timim (8) alγalı (näädägin tip tisär) 不能取隣逼境故
umaz üçün alγalı yaqın sıq-a (9) adqanγu-
lar-ıy
- 215 yana ymä ök uyur üçün alγalı siparır (10) 又亦能取頗胝迦等所障
-ta ulatı-lar üz-ä tıdılyu-luq bolmış öng-lär-ig 色故
- 216 又於 (11) 所見 yana körgülük-tä bolur üçün 又於所見有猶予故
ikirëgülänmäk
- 217 birök (12) alsar tägmiş-täki adqanγuγ qayu 若取至境 因何猶予
tılday-ın ikirëgülänür
- 218 tägmiş (13) ärmäz orun-ta ikirëgülämäk 非於至處猶予應理
tuγγu kargäk yörüg töz-in-täki (14) -čä ärsär

212 「前の所立の因は遠近二境(を)俱時に取るが故に」 adqanγu-lar-qa の -qa(dative) は -ıy (accusative) の誤り。

213 「証となる4)眼の唯だ1)取ることへ3)非至の境を2)といわば(その)理の5)無し7)傾動は6)」 ämidmäk は "MYDM"Kとかかかれている。tägmiş-täki 「至ったもの」+ärmäz 「非ざる」+adqanγu-lar 「境など」=「非至境」。

214 「又眼へ1)応らず3)境へ至り方を取る2) (なぜというなら) 4)能わざるが故に7)取ること6)隣逼して境などを5)」 国訳：「又、眼は、不應至の境を方を取る。……」。näädägin tip tisär にあたる漢文はない。

215 「又、亦1), 能くするが故に4)取ること3)頗胝迦等における所障となりたる色を2)」 siparır=skt. sphatikā 「頗胝迦」にあたる。

216 「又、所見において1)有るが故に3)猶予2)」 ikirëgü 「疑い」-län (denom. verb)-mäk (dev. noun)=「猶予」。

217 「若し1)取るならば3)至境を2)何に因りて猶予するや4)」

218 「至らざりし処において猶予が生ずるべき理性としては」 国訳：「至の処に於ては、猶予は理に應ずるに非ず。」。

- 219 76B činγaru bolmaz üčün kiši-ning toqmaq 又不審知人杌異故
 sögüd (15) -nüng adır-tin söz-läyü 既言至彼審知堅相不審
 tükädmiš üz-ä tägir anda (1) tip činγaru 差別
 bilip tägšilip turur bälğü-sin činγarmaγu(2)
 -luq adır-tin
- 220 munta bar qayu tildaγ-ı 此有何因
- 221 yana köz-nüng (3)bolmaz üčün uγur-ı yiq-ı 又眼無容至遠境故
 täggülük iraq-taqı adqanγu (4) -lar-qa
- 222 bolmaz uγur-ı yiq-ı munda turup köz ärdip 無容住此眼越多千踰繕
 üküš (5) ming yočan ülgü-ta 至月輪境 那量 至月輪境
 täggülük ay tängri (6) tırgän-lig adqanγu-qa
- 223 köz-tä bar üčün yruq bulduqmaz bu mün 眼有明故 無斯過者
 (7) qadaγ tisär yörügi ymä ök andaγ armäz 理亦不然
- 224 köz-tä oot yruq-ı (8) -nüng bar-ı arduqraq 眼有火明 非極成故
 бүдмиš ärmäz üčün
- 225 köz-nüng töz-i oot (9) ärmäz näčükin bolγay 眼性非火 寧有火明
 oot yruq-ı
- 226 76B 釈曰耳根亦唯 qulγaq ärklig ymä ök (12) 耳根亦唯取非至境
 yintäm alip tägmiš ärmäz adqanγu-lar-ıγ

219 「審知せざるが故に2)人の杌の異なりを1)言い既えたうえ6)至る4)彼ここに3)と5)審知して8)堅相を7)審すべからず10)差別を9)」 bolmaz は bilmäz の誤りであろう。toqmaq「捧」+sögüd「木」=「杌」。

220 「此に1)有るや3)何の因が2)」

221 「又眼の1)無きが故に5)容きこと4)至る3)遠境へ2)」 iraqはira'q とかかかれている。

222 「無し7)容きことは6)此ここに住みて眼が1)越え3)多千踰繕那量を2)至る5)月輪の境へ4)」 adqanγu は a'dqanγu とかかかれている。yočan=skt. yojana「踰繕那」。

223 「眼に1)有る故に3)明が2)無し5)斯の過4)とは(その)理亦然らず6)」

224 「眼に火明の有るは極成に非ざるが故に」

225 「眼の性は火に非ず寧んぞ1)有らん3)火明2)」

226 「耳根も亦、唯1), 取りて3)非至境を2)」

- 227 ıraq yaqın bulung (13) yingaq tayaq bolur 方維遠近可了知故
üçün bilmäk uqmaq-ı
- 228 77A qaltı bolur bilmäk (14) uqmaq-ı bu 謂可了知此南北等方維
kün-täki taγ-taqı ol tip ulatı ıraq (15) 遠近差別音声
yaqın bulung yingaq-taqı adırt öngi ünüg
(1) yangquγ
- 229 ün tägdük-tä qulγaq ärklig-ig timin ök (2) 声至耳根方得聞者
bolur äsidgäli
- 230 qaltı tadıγ-ta ulatı-lar täg bu sav-lar barça 應如味等 此事皆無
(3) bolmaγu kärgäk
- 231 豈 näčükin bolγay burun ärklig-ning ymä ök 豈不鼻根亦見能了方維
(4) körmädin umaγay bilgäli ıraq yaqın 遠近香差別耶
bulung yingaq-taqı yit-niing (5) adirdin
- 232 näčä körsär ymä täk bulung yingaq iyin 雖見但由順方廻轉 取
ävlirip (6) tägzinip alıp yit-ıγ bäkiz bälgü- 香明了比知差別
lüg bilmäk uγur-in-ta (7) tängläp bilir adirt-in
- 233 köz qulγaq kördük-tä äsid(d)ük-tä (8) ıraq 眼耳見聞方維遠近
yaqın bulung yingaq-taq-in
- 234 tayanmadın ävrilmäk tägzin (9) -mäk-kä 不仮廻轉而能了知
inçip uyur bäkiz bälgülük bilgäli

227 「遠近方維を1)可なるが故に3)了知すること2)」 tayaq は「維」を表すのか。cf. 228 231.
228 「可なり3)了知すること2)此の南北にあるというもの等の遠近方(維)にある差別の音声
を1)」
229 「声が1)至りしとき3)耳根(へ)2)方に4)得6)聞くことを5)」 ärklig-ig は är'klig-ig とか
かかれている。また -ig (accusative)は -kä (dative) の誤りか?
230 「味等の如く此の事は皆無なる應し」
231 「いかにならん、鼻根の亦1)見ず3)能わじ5)了すること4)遠近方(維)にある香の差別を2)」
näčükin は nä'čükin とかかされている。
232 「見ると雖も、但だ方に順じて廻轉し1)取り3)香を2)明了することに由りて4)比知す6)差別を5)」
ävlirip は ävrilip の音位転換形。
233 「眼耳の1)見しとき聞きしとき3)遠近方(維)を2)」
234 「仮らずして2)廻轉へ1)而も3)能くす5)了知することを4)」

- 235 anīn qul₇aq ärklig (10) -ning adqan₇u 故与鼻根取境非類
almaq-ī oxšadi ärmäz
- 236 yana ĩraq yaqīn (11) ünüg alduq-ta bolur 又近遠声 取有明了不
üçün bākiz bālgü-lük bilmāki bākiz (12) 明了故
bālgülük bilmāmāki
- 237 若至乃聞 birök tägdük-tä anī (13) -layu oq 若至之聞並応明了
äšidsär barča-nī bākiz bālgülük biligü (14)
kārgāk
- 238 yana ĩraq yaqīn ünüg alduq-ta bolur üçün 又近遠声 取有決了猶
(15) od₇uraq bilmāk ikirēgölāmāk üz-āki 予別故
adīrtī
- 239 77B birök täg (1) -tükdä anīlayu oq äšdsär 若至乃聞至無別故
tägmāk adīrt-süz üçün
- 240 (2) qaltī yaqīn-ta od₇uraq bilmiş täg alqu 如近決了 於諸遠声
ĩraq-taqī yaq (3) -ĩn-taqī ün-lär-tä bolma₇u 応無猶予
kārgāk ikirēgölānmāk
- 241 qaltī ĩraq (4) -ta ikirēgölāmiş täg alqu 如遠猶予 於諸近声
yaqīn-taqī ün-tä bolma₇u (5) kārgāk 応無決了
od₇uraq bilmāk
- 242 munda-ta ulatī tanuq-lar u₇ur-ĩn-ta (6) 由此等証 不至能聞
tägmāz-kānki uyur äšdgālī tip

235 「故に耳根の境を取ることは類に非ず」 漢文の「鼻」にたいして「耳」がはいっている。

236 「又遠近の声を取るに1)有るが故に3)明了と不明了が2)」

237 「若し至りしとき乃ち1)聞くならば3)すべてを2)明了す應し4)」 国訳：「若し至なれば、乃ち聞くに並に、応に明了なるべし」

238 「又、遠近の声を取りしとき1), 有るが故に3)決了と猶予における別2)」

239 「若し至りしとき乃ち1)聞くならば3)至を2)無別故に4)」

240 「近において 決了したるが如く諸の遠にある近にある声において 1)無かる應し3)猶予すること 2)」 yaqīn-taqī は余分。

241 「遠において猶予したるが如く諸の近にある声においては1)無かる應し3)決了すること2)」

242 「此れ等の証に由りて不至を1)能す3)聞くことを2)と4)」 -kānki については193を参照。

- 243 79B qulʔaq uyur (1) alʔalī tǎgmiš-tǎki 370C(12) 耳能取於至
adqanʔuʔ 境
- 244 ün ulalu ǎvrilip kǎlip kirür (2) üçün 声相続転来入耳故 又
qulʔaq-qa yana kǎndü öz-i uyur üçün 自能聞耳中声故
ǎšdǎli qulʔaq (3) -in-daǔi ünüg tip
- 245 bu söz-lǎmiš-ingiz-lǎr törü-süz ǎrür 此説非理
- 246 79B qaltı čung qongraʔu-ta (5) ulatī-lar-ıʔ 手纔執鈴声頓息故
qongradmaǔ-in-tin tuʔup öz ilig üz-ǎ nǎ (6)
böridtük-tǎ qongraʔuʔ öz-i kǎz-tǎ amrilmīš
tǎg üçün
- 247 birök (7) ün ulalu kǎlip kirdük-tǎ qulʔaq 若声相続来入耳中 手
içingǎ (timin ök bolsar ǎšidǎli) (8) ilig 執鈴時依鈴声可息
üz-ǎ tudmīš öd-tǎ qongraʔuʔ qongraʔu-qa
tayaq- liʔ-in (9) ün su bolz-un amrilmǎi
- 248 andirt-in tuʔ-a tükǎdmīš töz körk-tin (10) 從彼伝生 中間離質相
adirlmīš-i ǎrsǎr ulalıp amrilmǎdin bu 続不息 此声応可聞
ǎšdiligü kǎrgǎk
- 249 然執 (11) 鈴時 inčip tudmīš öd-tǎ qongraʔuʔ 然執鈴時 現見一切鈴
yüǎrü körrür alqu (12) qongraʔu ün-i-ning 声頓息 都不可聞
kǎz-tǎ amrilip arıdı ǎšdǎli bolmaz-i

- 243 「耳は1)能くす4)取ることを3)至境を2)」
- 244 「声は相続して転じて1)来入する故に3)耳に2)又、自らが4)能くするが故に7)聞くことを6)耳にある声を5)と8)」
- 245 「此の(なんじらの)説は非理なり」「疏主比説非理 isdiramatı baʔsı söz- (4) lǎr」が先行する。
- 246 「大きい鈴などを鳴らすことにより1)起こりて3) (声が) 2)手においてなにか4)触れしとき6)鈴に5) (その声は) 頓に息みしがごとき故7)」 öz はいずれも ün の誤りであろう。国訳：「手、纔に鈴を執れば、声頓に息むが故に」、čung < chin. 鐘
- 247 「若し声が相続して1)来入したならば3)耳の中へ2)(すなわち 4)、あとうならば 6)聞くこと5)手において7)執りし時9)鈴を8)鈴へ依りて声は10)可たるべし12)息むこと11)」 su = ?
- 248 「彼より生まれおえし、質を離れしものは相続して息まず此を聞く應し」 漢文の内容とはかなり異なる。andirt は 'NDYRT とかかれている。
- 249 「然るに1)執りし時3)鈴を2)現見す5)一切の鈴の聲の頓に息みて都て聞く可からざること4)」
国訳：「……一切の鈴の聲の頓に息むをを現見ん。都て聞くべからず。」

- 250 80A 若 (1) 謂 birök söz-läsär siz-lär qaltı 若謂如燈滅時近遠明皆
yula öçmiş öd-tä yaqın (2) ĩraq-ın-taqı 滅者 此亦不然
barça üçmiş-täg tip bu ymä ök andaγ ärmäz
- 251 birgärü (3) birgärü ärmäz öd-tä ävrilmäk 俱不俱時転差別故
üz-ä adırılmış üçün
- 252 bir ärmäz-li (4) bir-li ök ular üçün 非一与一相続異故
- 253 qaltı yula-lı yruq-ın-lı yügärü körülür (5) 謂燈与明現見俱転 燈
birgärü ävrilmış-i yula yalın-ı yana öç(ä) 焰纔滅則不見明
birlä ök ödrü (6) körülmäz yaruq-ı
- 254 ün ödrü andaγ ärmäz 声即不然
- 255 siz-lär taplamış üçün (7) töz körk-tin 彼許離質展転相続来入
adırılmış-ı ödlüm ödlüm ulalu kälip kirür 耳故
üçün (8) qulγaq tip
- 256 彼定定許 siz-lär-kä odγuraq tägimlig ol tap 彼定定許聞至声時初附
(9) -laγalı äşidmiş ödtä tägmiş-täki ünüg 質声久已謝滅
ang başlayu töz körk (10) -kä yaqın-qı ün
ärdä ök ärdä öçä tükädmış bolur tip
- 257 (11) birök andaγ ärmäsär ang başlayu 若不爾者 初所起声
turmiş ün-üg äşidilmış tuş (12) -taqı-sı 聞位猶存 失利那性
anı-layu oq turmaq üz-ä yidlinür kšan-ik töz-i

250 「若し (なんじら) 謂わば2)燈の滅したる時近遠にあるもの皆な滅したるが如しと1), 此も亦た然らず3)」 漢文「明」にあたるウイグル語が抜けている。

251 「俱, 不俱の時に転において差別したるが故に」

252 「非一と一と相続するが故に」 漢文の「異」にあたるウイグル語はない。

253 「燈と (その) 明とで1)現見す3)俱転が2)燈焰のまた (纔に) 滅するとともに則ち4) 見えず6) 明5)」 国訳: 「謂はく, 燈と明とは, 俱に転ずるを 現見す。燈焰纔に滅ずれば, 則ち 明を見ず。」. öç 「滅す」-ä(gerund) birlä 「とともに」.

254 「声は即ち然らず」

255 「なんじらは1)許せし故に6)質を離れしこと展転と相続し2)来入するが故に4)耳 (へ) 3)と5)」

256 「なんじらへ定んで1)応し6)評す5)聞きし時3)至にある声を2)初めて質に附したる声は久しく滅し已えたことたと4)」

257 「若し 爾らざれば初めの 所起の声を聞きし 位が猶お存するうえにて1) 失す3) 刹那性は2)」
kšan-ik=skt. kṣāpika 「刹那」.

- 258 (13) anın ün yula yaruq-ı birlä birikmāz 故声与彼燈明不同
- 259 又 yana yula-lı yal (14) -dīrīq-ın-lı-nıng 又燈与明 相統各異
ulaq-ı öngin öngin öngi ärür
- 260 80B qaltı köngül (15) köngül-täki nom-lar 如心心所同共緣生 緣
bir tæg bar qamaγ-lıγ tıldaγ tip tuγup (1) 被損時彼此俱息
緣 tıldaγ-ı tægmiş öd-tä qurulmaq-qa anı-lı
munı-lı bir (2) amrılmış tæg
- 261 ün ödrü andaγ ärmāz ulaq-ı adırt-sız (3) 声即不爾 相統無異
ärür
- 262 qaltı bilig-ning ulaq-ı tæg qamaγ-lıγ-sız 如識相統不共緣生
tıldaγ-tın (4) tuγar
- 263 ün öng ulaq-ın-ta 前声雖減 öngdüнки (5) 声相統中 前声雖減
öng näčä öčär ymä kinki ün anılayu oq 後声猶起
tursar
- 264 nä üçün (6) äşidmiş anı üçün töz körk-kä 何故不聞 是故依質所
tayaq-lıγ-ın qayu turmiş ün (7) yangqu 發音声 即能為緣生於
ödrü uyur tıldaγ bolγalı tuγurγalı qulγaq 耳識
bilig-in
- 265 (8) birök munda öngi ol tip tisär ün 若異此者 声至方聞
tägdük-tä timin äşidmāk (9) üz-ä yaqın-taqı 了近遠声 應無差別
ıraq-taqı ünüg bilmāk adırt-sız bolγu kargāk

258 「故に声と燈明とは同じからず」

259 「又燈と(その)明との相統は各異なる」 yaldīrīq は yaltrīq/yaldrīq とかかれるのがふつう。

260 「心心所が同じく共縁として生じ、その縁が1)被りし時3)損を2)彼と此とは俱に息む如し4)」

2番目の bir は birlä の誤りであろう。bar qamaγ-lıγ で「共」を表すのか。cf. 262.

261 「声は即ち爾らず相統は無異なり」

262 「識の相統の如く不共縁から生ず」

263 「声は色の相統中、前の色が減すと雖も後の声は猶お起これば」 ün öng は ün-nüng 「声の」
の öng näčä öčär ymäはün näčä öčsär ymä 「声が減すと雖も」の誤りであろう。

264 「何故聞けるや、是の故に質に依りて所発の音声は即ち1)能くす5)縁と為ることを2)生ずることを4)耳識を3)」 äşidmiş は äşidmāz の誤りであろう。

265 「若し此れと異なるというならば声が至りしときに方に聞くことにおいて近遠の声を了すること
無差別となる応し」

- 266 (10) inčip kántü öz-ī umaq-ī üz-ä äšidgäli 然自能聞耳中声者 非
qulʔaq-taqī ünüg näng (11) yīt-ta ulatī-lar 如香等隣鼻等根
burun-ta ulatī ärklig-lär-kä yaqin bolmış
(12) tæg ärmäz
- 267 雖在耳中 näčä tursar ymä qulʔaq-ta anılayu 雖在耳中 仍非至境
oq (13) tægmiş-täki adqanʔu ärmäz
- 268 85B 今説大徳 amdī söz-lägüci (11) ayaq-qa 373B(16) 今説大徳如
tägimlig darm-a diradī baxši-niing mundaʔ 是意趣 非即可樂亦非
oşuʔ-luq (12) abipirayī yol-in ödrü sävgülük 可惡
ärmäz ymä ök alʔuluq ärmäz
- 269 (13) tæk tägimlig ärmäz ol isdägäli 但應尋究 如何無間
tübğärgäli nädägin ooq-suz (14) ärip anılayu 仍不相触
oq bir ikinti-kä bürüdüşmäz
- 270 yörüg-i uʔul (15) -maduq üçün abipirayī 理未顯故 意趣難知
yol-in alp bolur bilgäli
- 271 86A birök söz (1) -läsar alqu barmʔu-lar- 若説諸微全無間隙 然
niing бүдүн yoq ärip ooq-ī yiq-ī inčip (2) 不相雜
bir ikinti-kä qadilişmaz tip

- 266 「然るに自ら1)能くすることにおいて4)聞くことを3)耳中の声を2)香等、鼻等の根に隣したるが如きに非ず5)」
- 267 「在りと雖も2)耳中に1)仍お至境に非ず3)」 adqanʔu は"D"U とかかっている。
- 268 「今1). 説くものは3)大徳救法の是くの如き意趣を2)即ち可樂に非ず亦、可惡(?)に非ず4)」
国訳: 「今、説く。大徳の是の如きの意趣は、即ち、楽しむべきにも非ず、亦、惡むべきにも非ず。」. darm-a diradī=skt. dharmatrāta. cf. bhādanta-dharmatrāta=「大徳達磨多羅」.
- 269 「但だ1)応からず3)尋究する2)如何に無間なれども仍お相い触れざる」 bürüdüş-<bürtüş-
- 270 「(その) 理は(顯れざるが) 故に意趣を1)難し3)知ること2)」 uʔulmaduq=?
abipirayī<skt. abhiprāya
- 271 「若し1)説くならば6)諸の微の全く2)無く4)間隙3)然も相い雜せずと5)」 barmʔu=「微」

漢語—ウイグル語対照語彙

(dはt音を, tはd音を表す)

- 1 画
- 一 bir 3 8 43 85 93 94 192 194
252; ang'ilki 76 84 116; 一
切 alqu 15 31 88 107 138 189
249 alqu barča 21 144.
- 2 画
- 乃 anılayu oq 237 239.
二 iki 75 83 107 192 196 198 212;
ikinti 76 84 136 178.
人 kiši 219.
入 kir- 244 247 255.
力 küc 150.
又 yana 9 15 18 24 43 60 66 68
73 118 149 176 179 200 206 209
214 215 219 221 236 238 244
259.
了 bil- 158 159 231 232 236 237
238 240 241 265; bilil- 111; 了
知 bil- uq- 78 227 228.
- 3 画
- 三 üç 117; üçünç 136; üçägü 116.
上 上首 baş başlay 33; 上昇 yuqaru
aydın- 125; 以上 -ta yuqaru
178.
与 birlä 162 163 177 206 211 258;
-lı/-li...lı/li 252 253 259; -qa/
kä 9 10 39.
及 ulatı 3 51 54 85 90 91 94 95.
- 久 arda ök arda 256.
千 ming 222.
大 ulu 63 82 203 204; 大種 max-
a but; 154; 大德求法 ayaq-qa
tägimlig darm-a diradı baxşı
268.
小 kiçig 203; azu- 204.
山 ta 210.
已 -u (gerund) tükäç- 94 102 105
106 111 256.
- 4 画
- 中 iç 247; 中間 ikin arağı 210; 助
詞の中はふつう -ta/tä -taqi/
täki で表される.
云 云何 nädägin 22 101 qayu ol
tip tisär 75.
五 biş 25 71 72 114 121 135 139
148 149; bişinç 136.
今 amti 2 268.
仍 anılayu oq 267 269.
六 altınç 68 69 70.
分 ülüş: 夜分 tün ülüş-i 119 122
昼分 kün-düz ülüş-i 125 128;
少分 15 18 20 123 少をみよ.
切 一切: alqu 15 21 31 88 107 138
189 249 alqu barča 144.
予 猶予 216 217 218 238 240 241
猶をみよ.
天 天授 divatađ 191.

少 az 61; 少分 yarım-ça 15 18 20 123.

引 tardıl-: 引発 tardılıp tuγ- 148.

心 köngül 3 4 10 13 15 17 18 19 20 27 30 31 34 36 38 39 44 46 49 51 53 54 56 62 132; 心所 köngül-täki nom 5 6 11 24 32 35 42 43 45 58 59 60 64 260.

方 timin ök 67 74 202 203 229; timin 214 266; bulung yingaq 192 196 232; 方維 227 228 231 233.

日 kün tngri 128: 日輪 kün tngri tilgän 125.

月 ay 119; ay tängri 222.

木 iγač 169.

火 oot ot oq 151 169: 火明 oot yruq 224 225 ot yruq 198 200 ot-nung yruq 199.

牛 ud 169.

5 画

且 munča 2.

世 世間 yirtinčü 111 115 124 176 184.

令 kim + (Caus. suf.) 154.

処 orun 69 218.

功 功能 ädräm 188.

北 taγ 228.

弁 uqıd- 114.

可 bol- 23 178 227 228 247 249; -γuluq/-gülük 268.

四 törtünč 136.

外 taš-tin singlar-qı 5 41; tašγaru

72.

失 mün qadaq 42; yidlin- 257.

平 平坦 түз tašang 125 128.

必 ođuraq 87; 必定 adırt-lıγ ođuraq 50.

正 köni: 正見 köni körüm 115 116 124 127 130 133; 正理 köni yörüg 173.

永 birdämläti 81

生 tur- 3; tuγ- 43 71 85 90 96 105 118 141 144 149 150 151 153 154 178 248 260 262; tuγur- 131 158 264; 異生 65 117, 異をみよ, 非六生 68, 六をみよ.

用 iş 112 150 151 152 153.

由 uγur-in(ta) 16 62 154 167 177 211 232 242.

立 uqıd- 13 83 212; uqıdıl- 14.

6 画

亦 ymä 32 35 37 53 55 68 73 121 124 127 130 142 147 175 181 184 197 204 215 223 226 231 250 268.

仮 yılayu: 仮我心 yılayu män köngül 6 13; yılayu-sınča 17; tayan- 234.

伏 yaval- 36 204; yavalđur- 35; basıdıl- 204. 調をみよ.

光 čoγ 128; 光明 čoγ yruq 202 yruq yašuq 201; 大光明 uluγ yruγ yaldırıq 203.

全 būdün 271.

共 yomγı 111; qamaγ-lıγ: 不共

qamaŋ-lī-ŋ-siz 39 141 共緣	当 kin 114; inčip 157.
qamaŋ-lī tildaŋ 260 不共緣	成 bol- 19 21 42 168 174 175 180;
qamaŋ-lī-ŋ-siz tildaŋ 262.	büd- 186 195 198 199 224; 成
各 öngin öngin 93 259.	就 tükäl-lig bol- 87 105 177
同 bir täg 198 260; bir täg bol-	183.
170; birik- 206 211 258; 同異	有 bar 12 25 91 106 122 146 158
類心 bir uŋuš-luŋ öngi uŋuš-luŋ	163 220 223 224; bol- 10 59 75
köngül-lär 46; 同類心 oxšađi	133 135 157 178 191 216 225
köngül 60.	236 238; -lī/-lig/-luŋ/-lüg 21
名 ađ/at 32 59 62 63 167 169;	88 89 95 96 115 127 134 136
ađi/atı bol- 4 8 11 15 31 40	143 145 149 184; 有表 uqıđur
41 44 57 67 74 81 94 98 104	148; 有情 tınl- lar 185.
113 164 176 184 188 190; ađa-	次 kăzig: 次第 kăzig tizig 83 iyin
70 85 87 178 181.	kăzig-čä 100; 漸次 ančan ančan
因 tildaŋ 160 195 198 212 217 220	kăzigčä 92 118.
因緣 tildaŋ 23 avant tildaŋ	此 bu 1 22 39 153 195 204 228 230
158 159.	245 248 250; munđa/munta 12
在 tur- 62 267; 自在 ärkčä tapča	70 88 106 111 174 220 222 242
28 29.	265; munung 16 41 62; muni
地 orun 99 117.	173 260.
多 üküš 61 222.	汚 染汚 19 51 53 54 55 89 95 114
如 qaltı.. täg 65 74 111 151 194	121 136 139 140 142, 染をみよ.
230 240 241 250 260 262 täg	汝 siz-lär 80.
151 209 266 qaltı 35 77 79 169	而 inčip 36 44 70 119 122 125 128
208; 譬如 inčä qaltı.. -ta/tä/	164 170 180 183 196 198 234.
täg 119 122 125 128 196; 如是	耳 qul, aq 138 162 163 226 229 233
munđaŋ 16 159 268 muni	243 244 247 255 264 266 267.
munčulayu 92 anđaŋ 62 anđaŋ	自 öz 30 84 85 107 132 244 266;
oq ärür 53 如是如是 anča anča	自在 ärkčä 28 29.
oq 132; 如実 čin-inčä kirtü-	至 tag- 186 187 188 189 190 192
sinčä 78; 如何 nădägin 269.	193 194 196 198 213 214 218
存 tur- 257.	219 221 222 226 237 239 242
尽 alqınču 144; alq-: 断尽 tarŋar-	243 256 265 267.
alq- 103.	色 öng 72 73 88 89 95 96 101 108

109 112 120 123 126 129 152
 153 155 174 175 185 205 210
 215.
 行 yorī- 28 29 30 33 34: 行動
 yorımaq täpinmək 191; 行者
 yogaçarı 131.
 衣 böz 202
 7 画
 来 käl- 244 247 255.
 何 qayu 3 12 27 75 106 163 217
 220; nädägin 24: 云何 22 101
 如何 269; 何故 nä üčün 264.
 位 tuş 184; tuş-taqı 257.
 作 qıl- 157.
 住 tur- 222; turmaq-lıy: 一住 bir
 turmaq-lıy 3 一生住 bir
 tuymaq-lıy turmaq-lıy 43;
 tuđmaq-lıy: 住持 särgürüp
 tuđmaq-lıy 150.
 体 töz 93: 自体 öz töz 107 見体
 körüm töz-lüg 160 164 168.
 体相 töz bälğü 190.
 似 oxşatı 39.
 伺 yinğä saqınč 20 21, 尋をみよ.
 但 tāk 36 167 176 177 232 269.
 初 ang başlayu 256 257.
 別 adırt 100 171 238 239; adırtla-
 158 159; adırıl- 117; angaru
 117; angayu; 202; 差別 23
 106 132 162 163 165 167 168
 219 228 231 232 265, 差をみよ.
 利 yti sikiz 109 112
 助 basut-lamaq 202 203.

即 ödrü 254 261 264 268; ol oq
 72 159.
 声 ün 228 229 236 238 240 241
 244 247 249 256 257 258 263
 264 265 266.
 对 körü 7; 对治 yöründäk 85.
 応 tägimlig: tägimlig ol. -γalı/
 -gäli 2 256 不応 tägimlig
 ärmäz....γalı/-gäli 16 156 164
 166 168 181 200 214 269; -γu/-
 gü kargäk 8 19 21 63 153 175
 180 184 205 218 230 237 240
 241 248 265; 相応 yaradııl- 115
 145 147.
 我 män 27 29 31 32 37 78 仮我心
 yılayu män köngül 6 13 我執
 män adqay 15 17 24.
 改 改易 täğsil- 168 169.
 杙 toqmaq söğüd 219.
 求 tilä- 201 202 203.
 決 odγuraq: 決了 odγuraq bil- 238
 240 241.
 究 究竟: birdäm-lig 67 birdämläti
 74; 尋究 isdä- tübgär- 269.
 見 kör- 66 68 72 73 91 100 102
 120 123 126 129 155 156 172
 176 181 182 203 205 209 210
 216 231 232 233 249; körül-
 204 207 253; körüm 25 107
 108 110 113 114 115 116 117
 121 124 127 130 133 135 138
 139 140 142 143 144 145 146
 147 149 152 153 160 164 168
 174 175.

言 sözlä- 14 164 172 182 219;
yrlıqä- 77 79: sav 116 157;
tip ti- 162.
身 ät'öz 25; 五識身 biş bilig-lär
quvraγ-ı 148.
近 yaqın 192 194 196 198 209 212
227 228 231 233 236 238 240
241 250 265; 親近 yaqın
yaγuq 8.
那 踰繕那 yočan 222; 剎那 kšan
257.

8 画

事 sav 230; vastu 86.
依 tayan- 6: 能依 7 14 50 59 61
156 所依根 tayanγuluq ärk-lig
165; tayaq 9 10 13 15 18: 所
依 48 52 56 62 167 168 依止
17; tayaq-lıγ 169 172; tayaq-
lıγ-ın 34 83 151 173 247 264.
其 anıñ 114 187.
剎 剎那 kšan 257.
到 tägmäk 188.
取 al- 189 193 198 212 213 214
215 226 232 235 236 238 243;
tud- 25.
受 tägin- 63.
味 tadıγ 230
命 命終 öl- 148.
坦 平坦 125 128, 平をみよ.
夜 tün: 夜分 tün ülüş-i 119 122.
実 如実 çin-in-čä kirtü-sinčä 78.
定 odγuraq 26 50 66 187 256
井 birlä yana 96.

彼 ol 7 22 26 34 83 90 94 95 99
101 103 159 194 198; anıñ 40
85; anı 67 74 86; anda 178
219; siz-lär 14 24 255 256.
性 töz 7 24 48 50 52 55 56 59 61
84 170 171 225 257; töz-lüg
10 168 194 198 199 200.
学 boşγut 117 127 130 136 143
144.
或 azu 12 61; azu-ča 20 105 210.
所 所依 7 9 10 13 48 52 56 62
165 167 168, 依をみよ; 所言
qayu söz-lä- 14; 所縁断 adqaγ-
ın tarγarmaq 84 adqaγ-ın
tarγarmış 87; 所縁事 adqanγu-
lug vastu 86; 所縁境 adqanγu-
luγ adqanγu 133; 所見 körgülük
120 123 126 129 216; 所立
oqidγu-či 212; 所起 turmiş
257; 所発 qayu turmiş 264;
所繫 qoşulγuluq 91; 見所断
körmäk-tä tarγarγuluq 72;
心所 3 5 6 11 24 32 35 42
43 45 59 58 60 64 260, 心をみ
よ.
拘 拘礙 tıdıl- tuđul- 185 186.
易 改易 168 169, 改をみよ.
昇 aγdın- 125.
明 yaruq 119 122 196 198 199 200
204 206 208 209 223 224 225
253; yaruq yaşuq 109 112; 明淨
yruq arıγ bol- 123 129 133
közün 126; 明了 bākiz
bälgülüg bil- 232 bil-236

237; 明燈 yula yaruq-i 196 198
 yruq yula 206 209; 光
 明 yruq yaşuq 201 çöy yruq 202
 yruq yaldırıq 203 259; 火明 yruq
 yaşuq 203; 燈明 yula yruq-i 258.
 朋 朋類 arq-a uyuş 64.
 果 tüş 3 94.
 林 arıy: 樹林 sögüd arıy 210.
 治 uzaq bol- 85.
 法 nom 39 41 49 63 66 73 74 85
 90 96 99 101 102 105 107 108
 109 121 124 127 130 142 168;
 törü 65 152 191.
 物 ad 209.
 盲 taglök 176 177 178 179 180
 183 184.
 知 bil- 270; 審知 çınaru bil-
 219; 比知 tängläp bil-232; 了
 知 bil- uq-78 227 228 bākiz
 bālgülük bil- 234.
 若 birök 27 54 152 174 182 188
 190 194 217 237 247 257 271;
 qayu 39 85 105; anđay yana
 73; kim-lär 80; ap ymä 88
 89; 謂若 51 196 若謂 165 203
 250, 謂をみよ.
 表 有表 uqıdır 148.
 長 長益 ükli- 154.
 門 uyr: 外門 taşaru uyr-i 72
 內門 içgärü uyr-i 110.
 阿 阿毘達磨 abıdarmiki 82.
 附 yaqın: 附質声 töz körk-kä
 yaqın-qı ün 256.
 阻 險阻 119 122, 險をみよ.

非 ärmäz 9 38 45 62 66 68 70 72
 73 100 110 120 133 138 140
 142 146 147 149 160 172 176
 178 186 191 199 202 213 224
 225 235 252 266 267 268;
 -siz/süz 186 204 245; -ma-/
 -mä- 32 193.

9 画

便 ödrü 86.
 前 öngdün 111 212 263; 現前
 yüüz yügärü qıl- 178, yüüz
 yügärü bol- 182
 則 ödrü 62 81 184 189 209 253.
 南 kün 228.
 品 bölük 93; 睡眠品 114 随をみよ.
 垢 kkir 134.
 契 契經 sudur 77 79.
 度 推度 109, 推をみよ.
 廻 ävlir-: 廻転 ävlir- tagzın- 232
 234.
 後 kinki 263: 最後 qamay-ta ang
 kinki 99.
 恒 turaru 28.
 持 tuđ- 150.
 故 ücün 17 18 20 23 25 26 33 34
 48 50 56 64 67 72 74 86 99
 102 103 112 117 118 134 150
 160 161 162 165 167 168 182
 193 194 195 198 199 201 203
 204 207 209 210 212 214 216
 219 221 223 224 227 236 238
 239 244 246 251 252 255 264
 270: anın 14 31 42 156 235

- 258; ücün.....anın 11 164 174.
- 是 bu 157; munda 71 185 200;
munı 81 184; anı 26 183 265;
är- 15 107 110 137 139 144
145 152 160 176 194; 如是 16
53 62 92 132 135 159 268 如を
みよ.
- 晁 kün-düz 125 128.
- 染 kir 100 kir-lig 73 不染 kir-
siz 66 73 染汚 kkir-lig/kir-lig
19 51 53 54 114 121 136 139
140 142 不染汚 kir-siz 89 95.
- 淨 arıγ 134: 明淨 yruq arıγ bol-
123 129 arıγ yruq bol- 133;
明淨 közün- 126; 不淨 kkir-lig
134.
- 為 bol- 5 9 10 11 13 15 17 27 31
40 44 48 52 56 57 59 61 62 81
98 164 183 264; qıl- 25 33 39
117.
- 独 yalnguz 33; säcä 164.
- 界 uγuš 25 109.
- 発 tuγ-: 引発 tarđılıp tuγ- 148;
tur-: 所発 qayu tur- 264.
- 皆 barča 15 19 31 48 52 94 138
140 142 146 230 250.
- 相 bir ikinti 47 56 59 171 186
187 269 271; töz 111 114 190;
相違 täğsüt 41 112 qarşı bol-
176; 相応 birlä yarađıl- 115
145 147; 堅相 turur bälğü
219; 相続 ulal- 244 248 ula-
252 ulaq 261 202 263.
- 臆 頗臆迦 215, 頗をみよ.
- 苾 苾芻 toyın 80.
- 草 ot 169.
- 迦 頗臆迦 215, 頗をみよ.
- 音 ün: 音声 ün yangqu 228 264.
- 首 上首 baš bašlaγ 33.
- 香 yıt 231 232.
- 10画
- 俱 birlä 141 149 154; birgärü 192
194 196 198 251 253; bir:
俱時 bir öd 212.
- 修 bišrunmaq 91 118.
- 倒 顛倒 120, 顛をみよ.
- 冥 晦冥 119 122, 晦をみよ.
- 容 uγur yıq 221 222.
- 展 展転 öqlüm öqlüm 47 255.
- 差 差別: adirt öngi 23 228 adirt
106 132 162 163 219 231 232
265 adırıl- 165 167 168.
- 師 baxşı 82 146.
- 息 amrıl- 246 247 248 260.
- 時 öd 30 67 74 85 92 98 148 178
192 194 202 212 247 249 250
251 256 260.
- 根 ärk-lig 71 137 138 154 165
179 185 187 189 193 197 226
229 231 235 266.
- 殊 adirtı 12
- 兹 munta: 由兹 munta uγur-in-
ta211.
- 益 asıγ 39; 長益 ükli- asıl- 154.
- 眠 随眠品 114 随をみよ.
- 能 u-...-γalı/-gäli 24 34 80 100
101 156 158 202 205 209 214

215 231 234 242 243 244 264	教	agam 161.
266; 能依 tayandaçi 7 14 50 55	断	tarar- 66 68 72 73 74 76 77
59 61 156; 功能 18.		79 80 81 84 85 87 91 92 101
芻 苾芻 toyin 80.		103; tarıq- 98 99 104 105 106;
被 tåg- 260		tarq- 86.
記 yrliγ: 無記 yrliγ-sız 55 136	晦	晦冥qarar- 119 122.
137 138 無記心 yrliγ-sız köngül	望	kör- 49 51 54 55 56 58 60;
53 54; yaraşı: 無記心 yaraşı-		köni (-sinčä) ? 44; 相望
sız köngül 51.		körüş- 47 171.
豈 näcük ol 6; näcükün bolay	欲	amranmaq: 欲貪 amranmaq
231.		az 80; küsä- 201; uγra- 202.
起 tur- 94 257 263; turur- 98;	深	arđuqraq: 深理趣 arđuqraq
tuγ- 184; tuγur- 154.		yörüg yol-ı 14.
除 öngi kiđar- 122; tarar- 132.	清	arıla- 128.
11画	理	yörüg 12 14 26 166 173 213
動 täpinmək; 行, 傾をみよ.		218 223 270; törü 204 245;
唯 yintäm 11 99 107 108 145 172		yukdi 161 162.
189 213 226; yalnguz 38.	現	yüüz yügärü: 現前 yüüz
執 tuđ- 247 249; 我執 män ađqaγ		yügärü qıl- 178 yüüz yügärü
15 17 24.		bol- 182; yügärü: 現見 yügärü
常 uzatı 9 29.		kör- 249 yügärü körül- 253;
得 bul- 23 32 59 105 167; bol- 57		körül- (現見) 204.
86 229; pirapdı 85 87 94; 得	異	öngi 46 49 70 165 259 265;
生 tägmäk tuγmaq 90 96; 眼		ađırt 219 261; ađırt öngi 133;
得永断 köz-üg birdämläti		異生 pardakčän 65 117.
tarararalı umış 81.	畢	birdämlig 205.
惡 ayıγ 102.	略	qavırasınča 75.
悉 alqu 138 140.	眼	köz 9 71 78 80 81 108 111 113
情 köngül 173; 有情 tinlγ-lar 185.		137 150 153 163 167 172 176
掩 掩蔽 örd- köliq- 125.		177 178 180 185 193 197 199
授 天授 divatad 191.		200 203 205 209 211 214 221
推 推度 yinčürdäçi izdätäçi 109.		222 223 224 225 233.
捨 tiq- 48 50 52 55.	竟	究竟 birdämlig 67 birdämläti
		74; 畢竟 birdämlig 205.

第 次第 83 100, 次をみよ。
 經 sudur 33 77 79.
 終 命終 148, 命をみよ。
 習 ögrädin- 131: 修習 bîşrunmaq
 ögrädinmäk 118.
 腦 煩惱 niz-vanî 67 74 103.
 許 tapla- 255 256.
 貪 az 18 80 141.
 転 ävril- 72 110 244 251 253: 廻
 転 ävril- tægzin- 232 234; äri
 äri 8 168; tægşil- 167; 展転
 ödlüm ödlüm 47 255.
 都 aridî 249.
 积 yör- 1 16 26.
 險 險阻 uçurum ada 119 122.

12画

勝 yig 36; yig adruq/aṭruq/
 adruq 115 150 151 154.
 善 ädgü 51 54 115 136 145 147
 149.
 喻 yöläşürük 206 211.
 尋 yoṭun saqinç 21: 尋伺 yoṭun
 inçgä saqinç 20; 尋究 isdä
 tübgär- 269.
 就 tuḍ- 36 188 190; 成就 tükäl-lig
 bol- 87 105 177 183.
 復 yana 12 43 181 183.
 覺 tuyunmaq 134.
 斯 bu 223.
 智 bilgä 157; bilgä bilig 144.
 曾 aridî 10 30.
 最 qamaṭ-ta: 最後 qamaṭ-ta ang
 kinki 99; 最極 qamaṭ-ta 129.

焰 yalın: 燈焰 yula yalın-ı 253.
 然 andaṭ: andaṭ oq 37 antaṭ/
 andaṭ bol- 22 166 不然 andaṭ
 ärmäz 1 26 195 223 250 254;
 inçip 249 266 271.
 無 yoq 14 119 134 161 162 176
 178 271: yoqadtur- 78:
 bolma- 42 56 120 221 222 230
 240 241; bulduqma- 30 223;
 -siz/-siz/-suz/-süz (privative)
 51 53 54 55 89 96 99 109 117
 130 136 137 138 141 144 171
 181 209 239 261 265 269.
 猶 anılayu oq 104 257 263; 猶予
 ikirçgülän- 216 217 240;
 ikirçgülä- 218 238 241.
 等 ulatî 43 228: -ta/-tä ulatî 3 9
 18 24 71 72 90 94 96 119 122
 138 162 163 191 202 208 210
 215 230 242 266.
 結 qoşuṭ 85 91 92 94 内眼結 içtin
 sîngar-qî köz qoşuṭ; uṭuş:
 内眼結 içtin sîngar-qî köz
 uṭuş 78.
 舒 y(î)rđıl- 128.
 衆 qamaṭ: 衆縁 qamaṭ basudçî-sî
 102 衆色 qamaṭ öng-lär 155.
 証 tanuq 242 213.
 越 ärd- 210 222.
 過 mün qadaṭ 223.
 道 yol 99 100.
 遊 kâzä yorî- 119 122 125 128.
 量 ülgü 222.
 開 別開 angaru adir- 117.

間 世間 yirtinčü-täki 111 176 184
yirtinčü-lüg 115 124; 相間隔
bir ikinti-kä atırılışmaz
tđdilişmaz 56 59; 無間 oq-suz
209 ooq-suz 269; 無間道
oq-suz yol 99; 中間 ikinti
araqı 210; 間隙 ooq yıq.
隨 iyin 99 100 173: 不隨法者
tüşmädäci törü-lüg 65; 隨眠品
anuşayakoş 114.
雲 bulıt 119 125.
順 iyin 232.

13画

傾 ämid-: 傾動 ämidmäk täbin-
mäk 213.
愛 sävig 185.
意 köngül 33 69 115.
愚 bilig-siz: 愚闇 bilig-siz-lig
qarangıu 132.
撰 tuđul- 116.
損 qurulmaq 260.
極 odıuraq 8; arduqraq 199 208
224; 最極 qamaı-ta 129.
樂 可樂 sävgülük, 268
減 öç- 250 253 256 263;
ärdmäklik: 一減 bir
ärdmäklik 3.
照 yaruđ- 196 202 207 209; yaruq
yaşuq: 照色 yaruq yaşuq öng
112.
煖 işig: 煖性 işig töz-lär-i 170.
煩 煩惱 niz-vanı 67 74 103.
統 相統: ulal- 244 247 248 255,

ula- 252, ulaq 259 261 262 263.
義 yörüg 71 75 186 187.
聖 見聖諦 102, 見をみよ.
触 bürüdüş- 269
逼 sıq-: 隣逼 yaqın sıq- 207 208
214.
違 相違 41 112 176, 相をみよ.
鈴 qongraıu 247 249; çung
qongraıu 246.
隔 相間隔 bir ikindi-kä atırılış-
maz tđdilişmaz 56 59.
隙 271, 間をみよ.
頓 káz-tä 246 249.

14画

像 körk 120 123 129.
境 ađqanıu 25 28 29 30 34 72 76
79 109 133 187 188 189 193
194 198 208 212 213 214 221
222 226 235 243 267.
増 ükli- 126 133.
寧 näçükin 225.
廓 açıl- 128.
微 barmıu 271.
德 大德求法, 大をみよ.
慢 küvānč 141.
漸 ančan ančan 126 131 133: 漸
次 ančan ančan kázig-čä 92
118.
漏 有漏 aqıı-lıı 88 89 95 96 115
136 145 17 149.
爾 andaı: andaı ar- 27 63 64
150 209 257 261 andaı oq ar-
121 124 130 andaı bol- 22

andaγ oq bol- 55 andaγ oq
 197; ol 98.
 疑 sizig 141.
 維 方維: bulung yingaq tayaq
 227, bulung yingaq-taqi 228
 231 233.
 聞 ašid-, ašd- 229 233 237 239
 242 244 249 256 264 265 266;
 ašidil-, ašdil- 248 257.
 説 söz-lä- 2 4 17 27 36 37 111
 113 146 156 173 176 183 194
 195 196 245 268 271; yrlıqa-
 33.
 豎 turur: 豎相 turur bālgü-si
 219.
 障 tidiγ: 垢障 kkir tidiγ 134;
 tidil-: 所障 tidilγuluq 215.
 雜 qađılıš- 271.
 静 静慮 dyan 178.
 頗 頗胝迦 siparir 215.
 鼻 burun 231 266.
 15画
 審 ċinγar-: 審知 ċinγaru bil- 219.
 慧 bilgä bilig 110 115 131 134 138
 140 141 143 144 145 147 148
 149.
 慮 静慮 dyan 178
 臚 övkä 141.
 緣 ađqan- 25 67 72 74 86 103
 133 174 175; ađqay 84 87 133
 134; tildaγ 3 27 260 262 264:
 因緣 tildaγ basudγci 23 avant
 tildaγ 158 159; 衆緣 qamaγ

basudci 102.
 諸 alqu 32 35 42 43 49 60 67 74
 82 90 91 92 94 96 97 99 100
 102 103 122 133 138 163 171
 179 184 209 240 241 271;
 kim 158.
 誰 kim 157.
 調 調伏: turuldur-yavaldur- 35
 turul- yaval- 36.
 論 論師 šastirakarī 82.
 質 töz körk 248 255 256 264.
 趣 yol: 理趣 yorüg yol-i 14 意趣
 abipirayī yol-i 268 270; ažu:n:
 惡趣 ayiγ ažu:n 102.
 輪 tilgän: 日輪 kün tngri tilgän
 125, 月輪 ay tängri tilgän 222.
 遮 tađ- 24.
 16画
 壞 ardat- 64.
 樹 sögüd: 樹林 sögüd arıγ 210.
 燈 yula 196 198 202 206 208 211
 250 253 258 259; yruq 194 209.
 縛 baγ 76 77.
 蔽 kölid-: 掩蔽 örd- kölid- 125.
 薪 ođung 151.
 親 親近 yaqin yaγuq 8.
 謂 qaltı 29 69 115 134 141 148
 177 203 228 253; 謂若 qaltı
 birök 51 qaltı kim-lär 196;
 若謂 söz-läsär 203 250.
 諦 見聖諦 102, 見をみよ.
 踰 踰繕那 yočan 222.
 闕 ägsük 102 179.

隣 yaqin: 隣逼 yaqin siq-a 207
208 214; yaqin bol- 266.

17画

糠 qir 169.
糞 mayaq 169.
總 yomdar- 135.
謝 謝減 öc- 256.
闇 qarangru 112 132 201.
睚 näcä.. -sar/-sär ymä 43 169
179 183 232 267; näcä.. -sar
ymä ök 35.

18画

躑 躑躑那 yočan 222.
覆 ördüg 138.
覷 körmäk 112 121 124 127 130.
顯 uqirdyal- 117 118.
類 uruš 46 49 64 135 136 137 139
143 144 145 149 171; 同類
oxšađi 60; 非類 oxšađi ärmäz

235.

19画

礙 拘礙 185 186, 拘をみよ.
繫 bay 86 94; qošul-: 所繫
qošululuq 91.
識 bilig 9 72 115 147 148 149 150
152 154 156 160 162 163 164
167 171 172 175 176 178 180
182 184 262 264.
離 öngi üdrül- 50 52 76 79 86 94
97 100; öngi 153; adirül- 248
255.

顛 顛倒 tädrü är- 120.

20画

蘊 yük-mäk 25.
譬 譬如: inčä qaltı... -ta/-tä
(locative) 119 122 125 128;
inčä qaltı...täg 196.

1. 第一、この書は、
 2. 第二、この書は、
 3. 第三、この書は、
 4. 第四、この書は、
 5. 第五、この書は、
 6. 第六、この書は、
 7. 第七、この書は、
 8. 第八、この書は、
 9. 第九、この書は、
 10. 第十、この書は、
 11. 第十一、この書は、
 12. 第十二、この書は、
 13. 第十三、この書は、
 14. 第十四、この書は、
 15. 第十五、この書は、
 16. 第十六、この書は、
 17. 第十七、この書は、
 18. 第十八、この書は、
 19. 第十九、この書は、
 20. 第二十、この書は、
 21. 第二十一、この書は、
 22. 第二十二、この書は、
 23. 第二十三、この書は、
 24. 第二十四、この書は、
 25. 第二十五、この書は、
 26. 第二十六、この書は、
 27. 第二十七、この書は、
 28. 第二十八、この書は、
 29. 第二十九、この書は、
 30. 第三十、この書は、
 31. 第三十一、この書は、
 32. 第三十二、この書は、
 33. 第三十三、この書は、
 34. 第三十四、この書は、
 35. 第三十五、この書は、
 36. 第三十六、この書は、
 37. 第三十七、この書は、
 38. 第三十八、この書は、
 39. 第三十九、この書は、
 40. 第四十、この書は、
 41. 第四十一、この書は、
 42. 第四十二、この書は、
 43. 第四十三、この書は、
 44. 第四十四、この書は、
 45. 第四十五、この書は、
 46. 第四十六、この書は、
 47. 第四十七、この書は、
 48. 第四十八、この書は、
 49. 第四十九、この書は、
 50. 第五十、この書は、
 51. 第五十一、この書は、
 52. 第五十二、この書は、
 53. 第五十三、この書は、
 54. 第五十四、この書は、
 55. 第五十五、この書は、
 56. 第五十六、この書は、
 57. 第五十七、この書は、
 58. 第五十八、この書は、
 59. 第五十九、この書は、
 60. 第六十、この書は、
 61. 第六十一、この書は、
 62. 第六十二、この書は、
 63. 第六十三、この書は、
 64. 第六十四、この書は、
 65. 第六十五、この書は、
 66. 第六十六、この書は、
 67. 第六十七、この書は、
 68. 第六十八、この書は、
 69. 第六十九、この書は、
 70. 第七十、この書は、
 71. 第七十一、この書は、
 72. 第七十二、この書は、
 73. 第七十三、この書は、
 74. 第七十四、この書は、
 75. 第七十五、この書は、
 76. 第七十六、この書は、
 77. 第七十七、この書は、
 78. 第七十八、この書は、
 79. 第七十九、この書は、
 80. 第八十、この書は、
 81. 第八十一、この書は、
 82. 第八十二、この書は、
 83. 第八十三、この書は、
 84. 第八十四、この書は、
 85. 第八十五、この書は、
 86. 第八十六、この書は、
 87. 第八十七、この書は、
 88. 第八十八、この書は、
 89. 第八十九、この書は、
 90. 第九十、この書は、
 91. 第九十一、この書は、
 92. 第九十二、この書は、
 93. 第九十三、この書は、
 94. 第九十四、この書は、
 95. 第九十五、この書は、
 96. 第九十六、この書は、
 97. 第九十七、この書は、
 98. 第九十八、この書は、
 99. 第九十九、この書は、
 100. 第一百、この書は、